

認定 NPO 法人キッズドア 2025 夏休み後アンケート

2025 年 9 月 26 日 認定 NPO 法人キッズドア

1. 調査概要	1
2. 調査結果まとめ	1
3. 調査結果	5
3.1 回答者の基本属性	5
3.2 夏休み期間中の生活と希望する支援	8
3.2.1 夏休み期間中の生活の大変さ	8
3.2.2 夏休み期間中の生活費	10
3.2.3 夏休み期間中に経済的な面で大変だったこと	13
3.2.4 夏休み期間中のエアコンの利用	17
3.2.5 夏休み期間中の子どもの食事	20
3.2.6 夏休み期間中の子どもの体調や様子	23
3.2.7 夏休み期間に希望する支援	25
3.3 夏休みについて印象に残っていること	28

1. 調査概要

- 目的：困窮子育て家庭の夏休みの生活や家計が実際にどうであったのかを把握し、緊急に必要な支援や次年度の夏休みに向けて準備すべき支援について検討すること。
- 対象：キッズドア・ファミリーサポート登録世帯
- 調査期間：2025 年 9 月 10 日～2025 年 9 月 16 日
- 回答数：1,716 件（回収率 39%）

2. 調査結果まとめ

物価高騰が続く中、困窮子育て家庭の多くは、家計を可能な限り切り詰め、貯蓄もゼロまたは少ない状態で生活している。このような中で、夏休みは、困窮家庭の子どもの健康や成長に悪影響を与え、経済的な苦境をさらに深刻にするものとなっていた。

まず、お金が足りないことで、子どもの食事や猛暑のエアコン利用といった、健康な生活、場合によっては命にも関わる重要なものを十分に用意できない家庭が少なからず存在していることが分かった。このような結果は、所得が低い層ほど深刻であるが、所得 300 万円以上の層にまで広がっていることも確認された。

次に、旅行やレジャーなどの夏休みらしい体験、中高生における塾の夏期講習等の学習についても機会や環境が不足していることが分かった。結果、周囲との差の広がり、友人と比較することによる心のダメージにもつながっている。学童保育の利用が終了する年齢以降の子どもの居場所の不足、それによる保護者の就労への影響も把握できた。

さらに、夏休みの影響は、夏休みが終わってからも続く。食費や光熱費等の夏休みの生活費の増加に対応すべく、やむを得ず貯金を崩したり、借入をした家庭がある。ただでさえ所得や貯蓄の少ない家庭において、これらの行為は今後の家計の悪化につながる可能性が高く、破綻のリスクも懸念される。

夏休みによって打撃を受けた困窮子育て家庭には、家計を改善するための現金給付等、緊急の支援が必要である。また、次年度以降、同じような事態が繰り返されないためにも、夏休み期間の食費や光熱費の支援、体験や学習、居場所等の確保について今から準備を進めることが重要と考えられる。

➤ **回答者の基本属性**

- ✓ 居住地は、東京都を含む「南関東」が約 4 割と最多。「近畿」（15%）、「東海」・「九州・沖縄」（いずれも 12%）など全国に分布。
- ✓ 2025 年に予想される世帯所得は、200 万円未満が約半数、300 万円未満が 8 割超を占めている。
- ✓ 小学生・中学生・高校生のいずれかの子どもがいる世帯が全体の約 9 割。
- ✓ ファミリーサポート登録世帯のうち「住民税の均等割非課税」は 36%。「児童扶養手当（全部支給）」は 52%、「児童扶養手当（一部支給）」は 29%。

➤ **夏休み期間の生活の大変さ、生活費**

- ✓ 夏休み期間の生活について「ふだんの生活より大変だった」との回答が 8 割超。
- ✓ 夏休み期間中の生活費がふだんに比べて「増えた」との回答は 9 割超。生活費の増加額として最も多かったのは、「2～3 万円未満」（33%）であり、増加の要因として食費や電気代を挙げる回答が圧倒的に多かった。
- ✓ 生活費の増加への対応としては、「貯金を崩した」との回答が約 6 割と最多であり、「保護者が副業やアルバイトなどをした」（18%）が続く。一方で、「カードローンなどを利用した」（17%）や「親族や知人から借りた」（11%）のように借入で対応するケースもあった。

➤ **夏休み期間中に経済的な面で大変だったこと**

- ✓ 最も多かったのは「旅行やレジャーなど子どもに夏休みらしいことをさせてあげられなかった」（80%）。「子どもを優先し、保護者が十分な食事を取れなかった」（51%）、「子どもにエアコンの使用を控えてもらうなど、猛暑への対応が十分でなかった」（46%）、「子どもに十分な食事を与えられなかった」（43%）といった健康に関わる事項も 4～5 割程度が選択。
- ✓ 子どもの学校種別に見ると、小学生で「子どものために仕事の時間を調整しなければならなかった」（54%）が半数を超えた。一方で、食事、エアコンの利用、学習等のほとんどの項目で、中学生・高校生の回答割合が小学生を上回る。成長とともに増える食事の量、学校以外の居場所の不足、学校以外での学習の重要性の高まりなど、子どもの年齢が上がるにつれて、夏休み期間の経済的苦しさにつながる要因が増えていくことが推察される。

➤ **夏休み期間中のエアコンの利用**

- ✓ 夏休み期間中、経済的な理由で暑くてもエアコンをつけずに過ごすことが「いつもあった、しばしばあった」・「ときどきあった」という世帯が約半数を占めた。
- ✓ 「いつもあった、しばしばあった」・「ときどきあった」の合計は、「所得 100 万円未満」では約 6 割、最も所得が高い「所得 300 万円以上」でも約 4 割と、困窮子育て家庭の多くが猛暑に対応することができない状態だったことが示されている。
- ✓ 自由記述では、子どもが家計を気にしてエアコンの利用を控えた、エアコンの利用を控えて熱中症になった、健康のためにエアコンを利用し電気代の高騰が家計を圧迫しているといった声が寄せられた。自由記述回答の一部を以下に掲載する。
 - ・ エアコンがない団地に住んでいるので、夏休み中は子供がずっと体調不良でした。
 - ・ 屋家にいた子供から痙攣ありと連絡があり早退。病院受診したところ熱中症の疑い。子供たちも家計を気遣って冷房を使わないようにしている。死んでしまっは元もこもないがギリギリのところ

やっています。

- ・ 熱中症が心配で子どもにもエアコンの使用を控えさせたくなかったので、光熱費などの支払いが遅れたり困難な時がありました。
- ・ 電気代捻出のため、おかずを減らしたり食事を単品麺類にしたり、栄養面が心配ですが仕方ありません。電気を止められたらもっと困るので。

➤ 夏休み期間中の子どもの食事

- ✓ 夏休み期間中、経済的な理由で子どもの食事の量や回数を減らすことが「週 1 日以上あった」世帯が 58%（「週 5 日以上」（13%）・「週 3～4 日」（16%）・「週 1～2 日」（29%）の合計）、「所得 100 万円未満」では 71%、「所得 300 万円以上」でも 47%と半数近い。
- ✓ 自由記述では、食事の量が減った、栄養が偏ったといった回答が非常に多く、子どもが 1 日 3 食を食べられていない、子どもの成長や健康状態に悪い影響が出てしまっていることを伝える声も見られた。自由記述回答の一部を以下に掲載する。
 - ・ 食事や夜は必ず食べさせられたけども、朝と昼は食費を気にしてしまい出せたり出せなかったりしてしまい、子供に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。
 - ・ 毎日のようにお腹すいたお腹すいたと言われ親としても前半は頑張ったが後半は費用なども考え、申し訳ないが沢山寝てもらって 1 日 2 食にしまった。
 - ・ 1 学期より身長が伸びていても、体重がほとんど増えなかったので 2 学期は痩せ型体型と指摘される事が毎年繰り返されていて、成長期なのに夏休みは給食のように栄養のある食事を食べさせてあげられていないからなんだと思うと辛くなります。
 - ・ 今年の夏休みは特に親子で体重が激減しました。熱中症で、辛かった日も多く、学校が始まって、子供は大喜びでした。夏休みは本当に地獄です。なくなってほしいです。子供も夏休みは大嫌いだと言っています。

➤ 夏休み期間中の子どもの体調や様子

- ✓ 約半数が、夏休み期間中に子どもの体調や様子に気になるところが「あった」（48%）と回答。具体的な内容としては「イライラするなど精神的に不安定になった」、「熱中症や夏バテになった」が多く、いずれも、気になるところが「あった」とした世帯の半数超が選択。
- ✓ 「体重が減った」も、気になるところが「あった」とした世帯の約 2 割（小中高生がいる世帯全体では約 1 割）に上る。
- ✓ 所得が低いグループほど「熱中症や夏バテになった」と「体重が減った」の回答割合が高く、特に「所得 100 万円未満」では「体重が減った」が 3 割。一方で「所得 300 万円以上」のグループでも「熱中症や夏バテになった」が約半数、「体重が減った」も 19%と、少なくない子どもが夏休み期間中に健康に生活できていなかった状況が示された。

➤ 夏休み期間に希望する支援

- ✓ 最も多く挙げられたのは「食料クーポンなど食費の支援」（82%）であり、「旅行や映画、レジャーに使えるクーポンなどの支援」（58%）が続いた。「学童、子ども食堂、居場所等で毎日無料の食事の提供」（34%）と「夏休み期間中の学校の開放と給食の提供」（28%）も約 3 割が選択。
- ✓ 子どもの学校種別で見ると、高校生では、食費やレジャーに加えて「塾や習い事に使えるクーポン等の支援」・「無料塾などの学習支援」も上位であった。

➤ 夏休みについて印象に残っていること

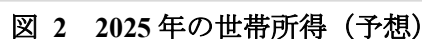
- ✓ 夏休みの全般的な苦しさを伝える声が非常に多く寄せられた。経済的苦しさの中で、現金給付、

支援対象の見直し（18 歳以上の子ども、ふたり親の多子世帯、住民税非課税ではない世帯等）を求める回答も寄せられた。

- ✓ また、夏休みの旅行やレジャー、学習、居場所などについて十分な機会や環境がなく、支援を求める声も多く見られた。夏休みに関する自由記述回答の一部を以下に掲載する。
- とにかく苦しかった。とても暑い部屋。満足に買えない食料。クラスの子は旅行や遊びに行ってるのに行けない。
 - 数万円しかない貯金でしたが、長い夏休みの食費で全て使い果たしました。この先不安しかありません。
 - 夏休みは毎年同じで旅行やレジャーなど全くできずに終わりました。必死に月 5 日しか休まず仕事をしましたが 4 人家族で 19 万の給料で暮らしているため毎月赤字でこれ以上は生活費がなく破綻が目の前でひとり頭を痛めています。養育費も支払われず死のうかと考えてしまいますが子供達をおいていけません。
 - 夏休み中は毎日家にいて、猛暑なのでエアコンをずっとつけている状態です。つけずに我慢をさせても、熱中症になり大切な子供を危険にさらすわけにはいきません。子供たち優先でいるので、自分の食事の回数や量を減らしています。夏休み中は早く起こさなくていいので、仕事に行く前に単発バイトを早朝にいらして食費にまわしたりしていました。倒れないようにだけ気をつけています。
 - とにかく何もかも高騰していて本当に辛い夏休みでした。微々たる貯金も切り崩してしまいもうなくなってしまいます。でも子供達は不満をいうわけでもなく協力してくれています。現金給付を廃止しろという声も聞こえますがそれはお金に余裕がある方の発言でしかないと思います。この辛い状況はひとり親の低所得者でしか分かり得ないです。
 - ひとり親になってから夏休みに一度も旅行に連れて行ってあげられず、毎年夏休みの絵日記に困っている様子を見て心苦しいです。
 - いつも仕事中は兄妹でお留守番をお願いしていたが、上の子が高校生になり夏休み中も学校へ行っていたので、下の子が一人で待っている時間が増えてしまった。さみしい、こわいと言うので、働く時間削ったり昼ごはんの時間に一旦帰宅したりしていた。せめて午前中だけでもいいので、学校でクラスのお友達と過ごせると嬉しい。と思いました。
 - 食べ盛りなので、補食やご飯にもお金がかかり、物価がすごく上がってしまったので、出かけたりするお金はありませんでした。塾も夏期講習だけでも行かせてあげたかったのですが、もう貯金も無いので難しかったです。
 - タブレットの課題があり 学校からタブレットを持ち帰ってきていたのですが 我が家は Wi-Fi 環境が無く freeWi-Fi のある所に出向いたり大変でした。タブレットを課題で出すなら ポケット Wi-Fi を無償レンタルするなど 何か対策があれば良いなと思いました。

3.1 回答者の基本属性

本調査の対象であるファミリーサポート登録世帯の登録時点での情報によれば、登録世帯のうち、「住民税の均等割非課税」は36%、「児童扶養手当（全部支給）」は52%、「児童扶養手当（一部支給）」は29%となっている。



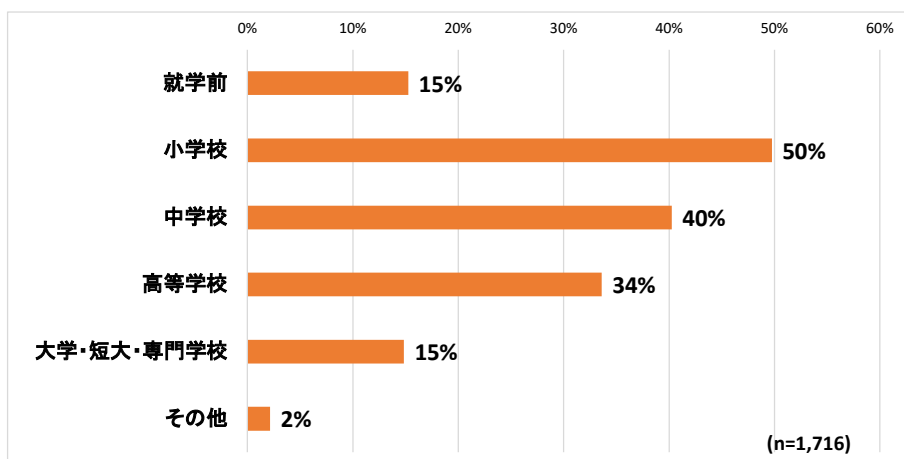


図 3 子どもの学校種（複数回答）

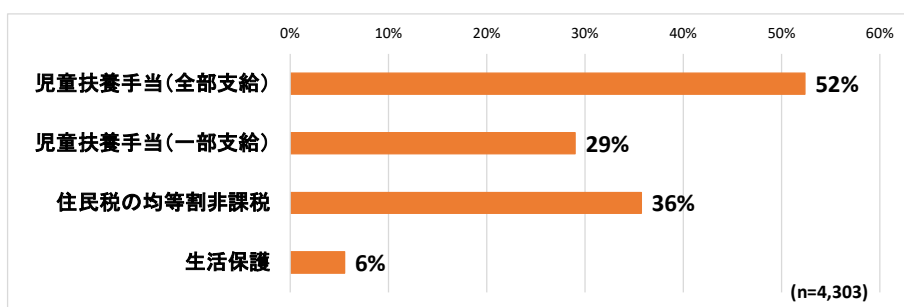


図 4 【参考】ファミリーサポート登録世帯の社会保障給付受給状況

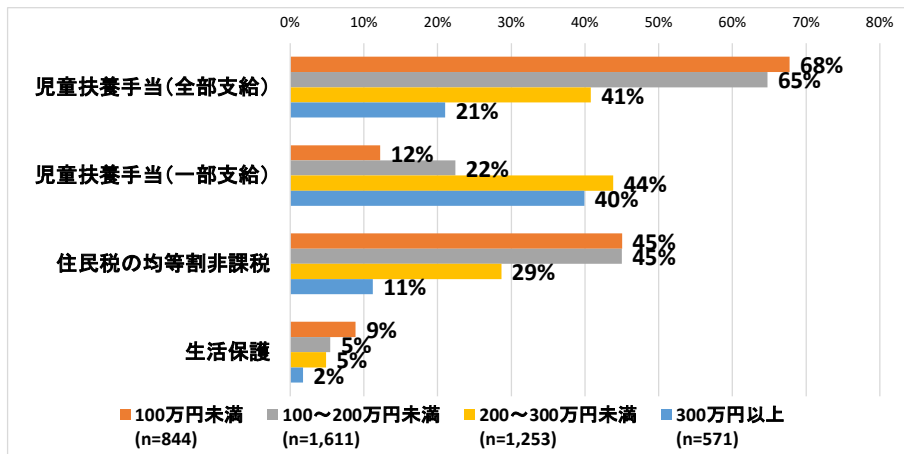


図 5 【参考】世帯所得別ファミリーサポート登録世帯の社会保障給付受給状況

(2) 小学生・中学生・高校生の子どもがいる世帯

本調査は夏休み期間中の生活に焦点を当てたものであるため、自由記述の質問項目を除き、「小学生」・「中学生」・「高校生」のいずれかの子どもがいる世帯（1,567 世帯、全体の 91%）を対象に回答結果を集計した。「小学生」・「中学生」・「高校生」のいずれかの子どもがいる世帯の基本属性は以下のとおりであり、全体とほぼ変わらない結果となっている。

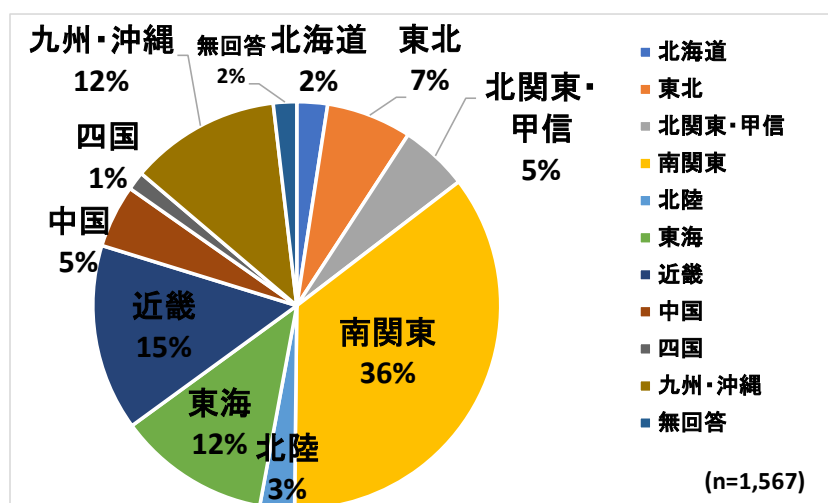


図 6 小中高生のいる世帯 居住地

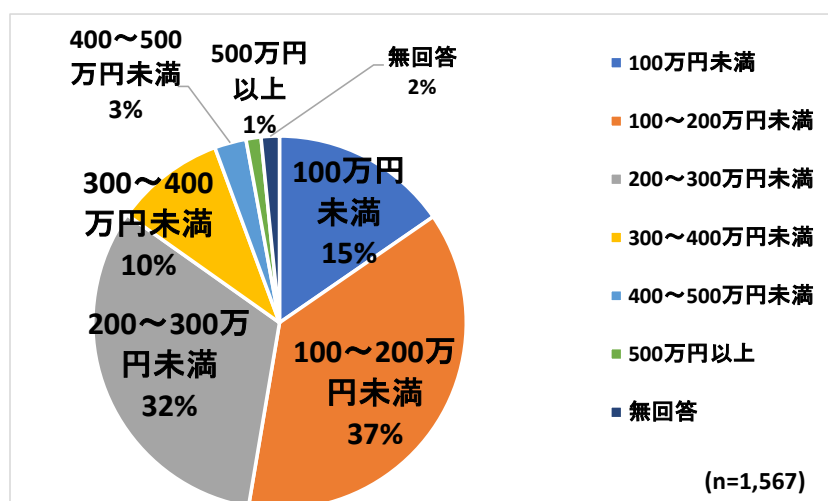


図 7 小中高生のいる世帯 2025 年の世帯所得 (予想)

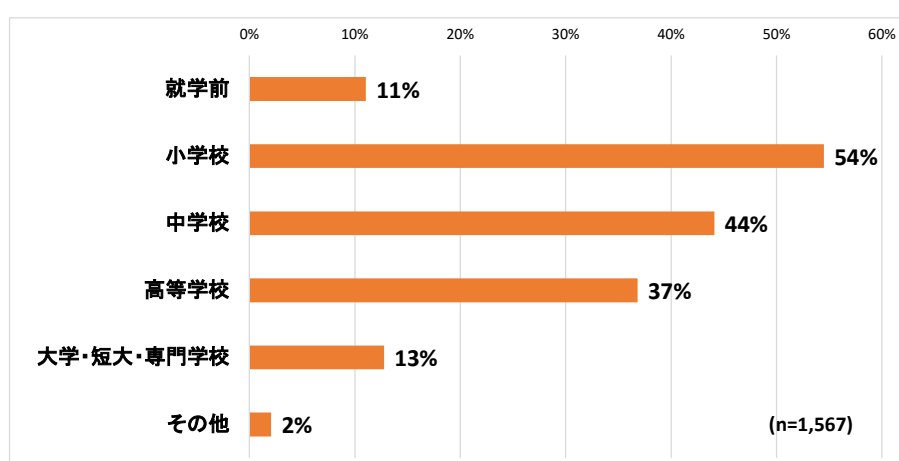


図 8 小中高生のいる世帯 子どもの学校種 (複数回答)

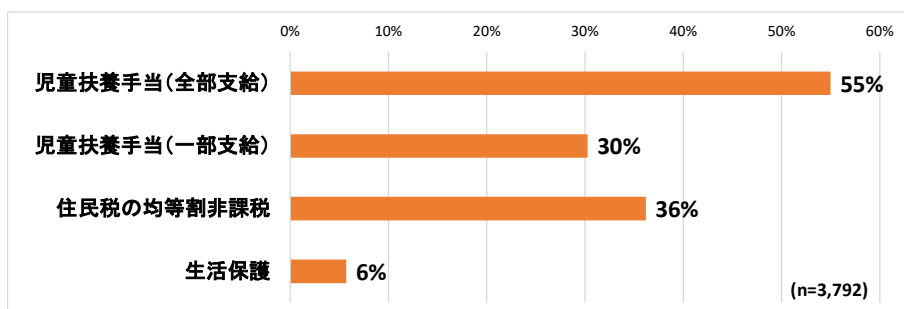


図 9 【参考】小中高生のいる世帯 ファミリーサポート登録世帯の社会保障給付受給状況

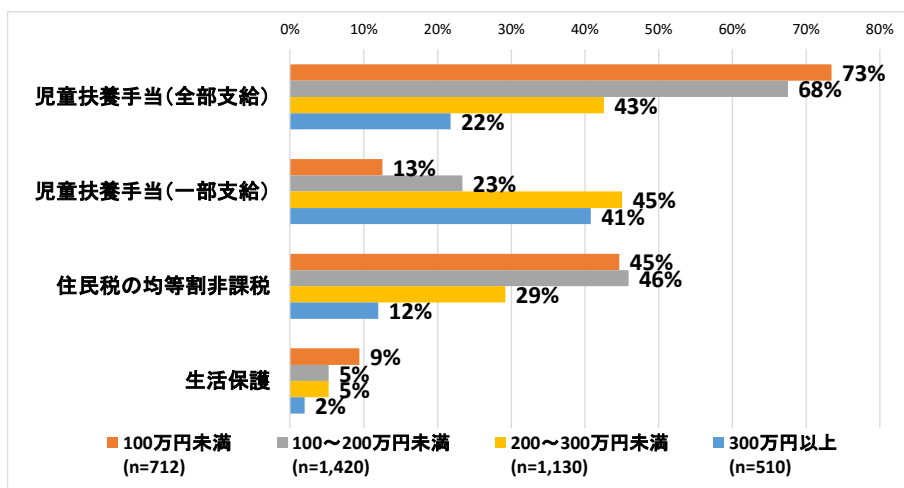


図 10 【参考】小中高生のいる世帯
世帯所得別ファミリーサポート登録世帯の社会保障給付受給状況

3.2 夏休み期間中の生活と希望する支援

3.2.1 夏休み期間の生活の大変さ

夏休みの長さについて尋ねた結果、「今より短い方がよい」と「今のままの長さでよい」との回答が多く、いずれも4割であった。夏休みが「なくてよい」(9%)と「今より短い方がよい」との回答を合わせると約半数を占めている。夏休み期間の生活については、「ふだんの生活より大変だった」(81%)との回答が8割超を占めた。

子どもの学校種別に見ると、夏休みが「なくてよい」または「今より短い方がよい」と回答した割合は、小学生で54%と最も高く、中学生47%、高校生32%と、年齢が上がるにつれて低下する。夏休み期間の生活が「ふだんの生活より大変だった」との回答でも同様の傾向が見られた。

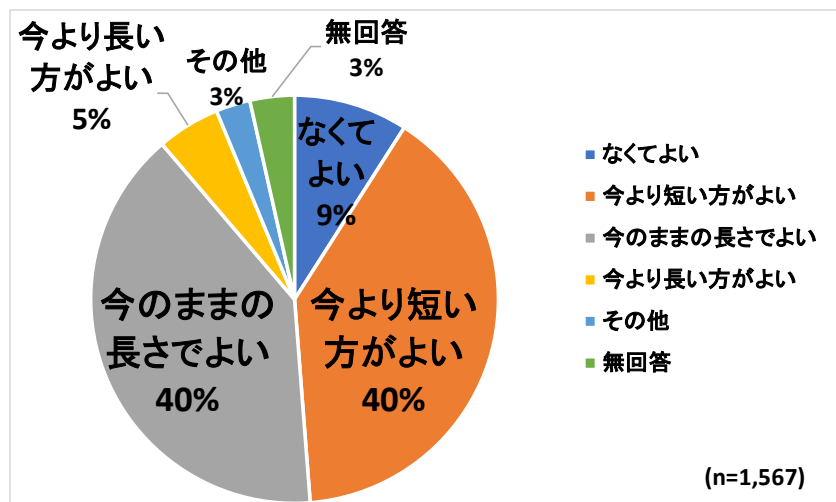


図 11 夏休みの長さ¹

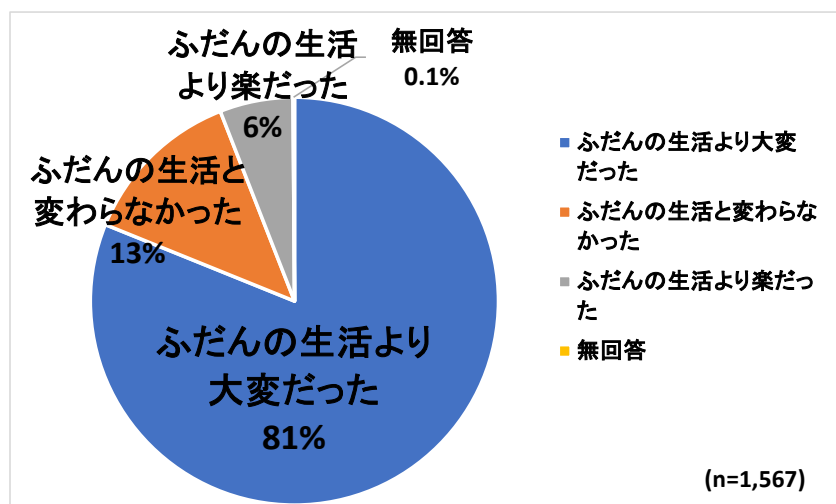


図 12 夏休み期間の生活²

¹ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択した方が対象。

² 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択した方が対象。

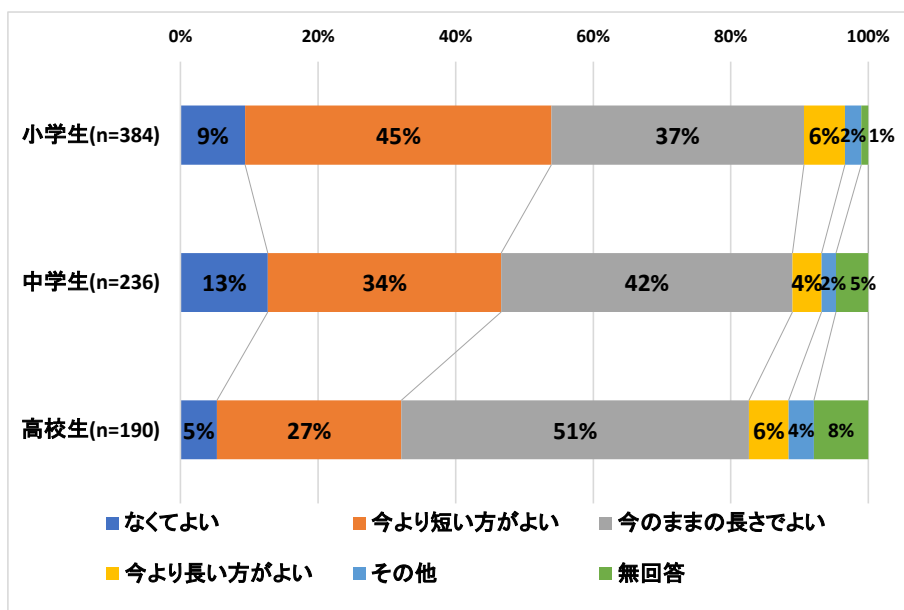


図 13 【子どもの学校種別】夏休みの長さ³

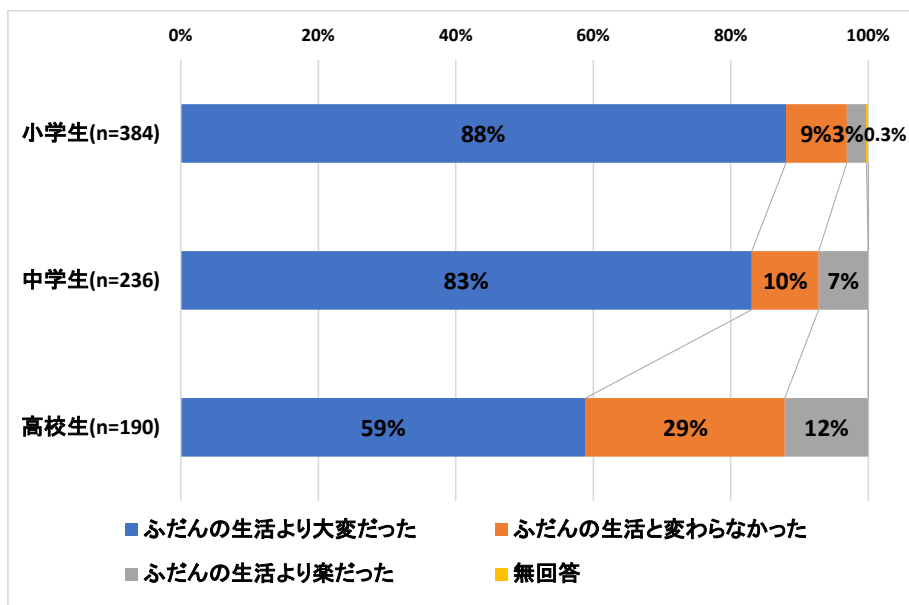


図 14 【子どもの学校種別】夏休み期間の生活⁴

3.2.2 夏休み期間中の生活費

小中高生のいる家庭の 94%が、夏休み期間中の生活費について、ふだんに比べて「増えた」と回答した。生活費の増加額として最も多かったのは「2～3 万円未満」(33%)であり、「1～2 万円未満」(24%)、「3～4 万円未満」(17%)が続く。生活費が増えた要因について自由記述で尋ねた結果、食費や電気代を挙げる回答が圧倒的に多かった。そのほか、レジャー、夏期講習、部活動(合宿等)の費用も多く挙げら

³ 「小学生」は子どもの学校種として「小学校」のみ、「中学生」は「中学校」のみ、「高校生」は「高等学校」のみを選択した方が対象。

⁴ 「小学生」は子どもの学校種として「小学校」のみ、「中学生」は「中学校」のみ、「高校生」は「高等学校」のみを選択した方が対象。

れた。

生活費の増加への対応としては、「貯金を崩した」（63％）との回答が約 6 割と最多であった。「カードローンなどを利用した」（17％）や「親族や知人から借りた」（11％）のように、貯金や収入増といった対応ではなく、借入で対応するケースもあった。世帯所得別に見ると、所得の高いグループほど「貯金を崩した」が多い。困窮子育て家庭の家計はギリギリの状態であり、貯蓄もゼロまたは少ないケースが多数である。よって、「貯金を崩した」と回答した世帯でも、その多くは、少ない貯金をやむを得ず崩した状況にあると推察される。夏休み期間中の生活費を賄うため、やむを得ず貯金を崩す、借入をするといった行為が、夏休み以降の家計の悪化につながってしまうことが懸念される。

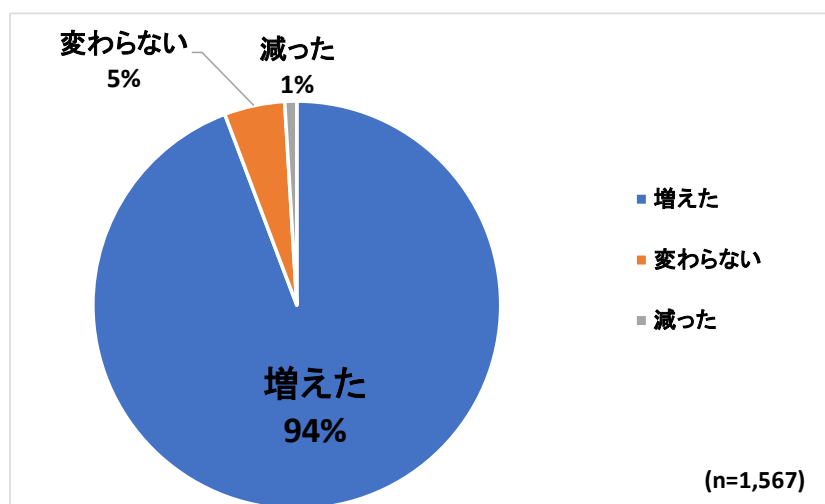


図 15 夏休み期間、ふだんに比べて生活費が増えたか⁵

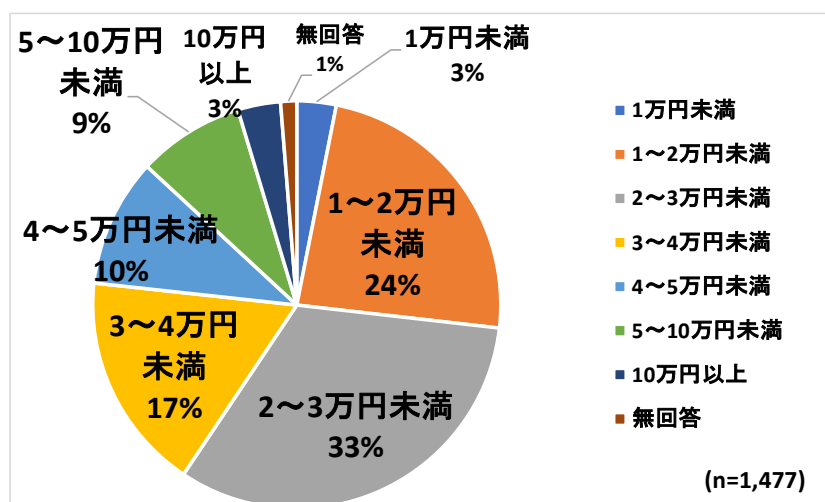


図 16 生活費の増加額⁶

⁵ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択した方が対象。

⁶ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択し、夏休み期間中にふだんに比べて生活費が「増えた」と回答した方が対象。

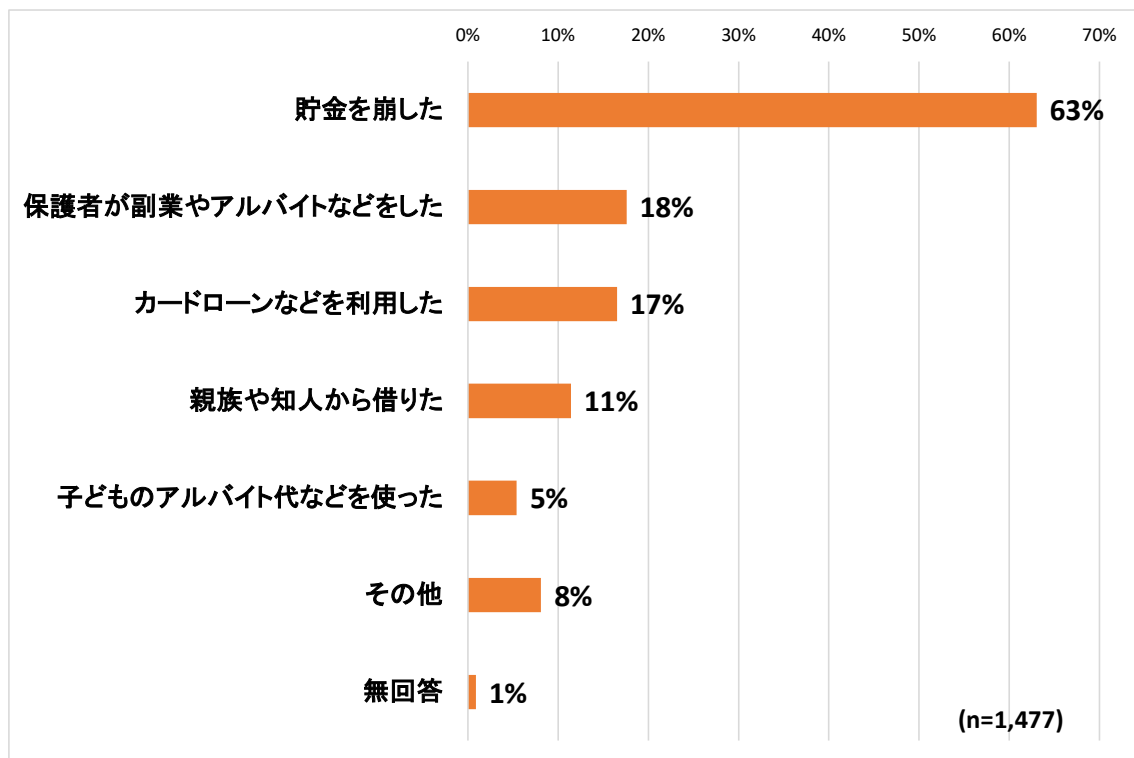


図 17 生活費の増加額をどのように工面したか（複数回答）⁷

⁷ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択し、夏休み期間中にふだんに比べて生活費が「増えた」と回答した方が対象。

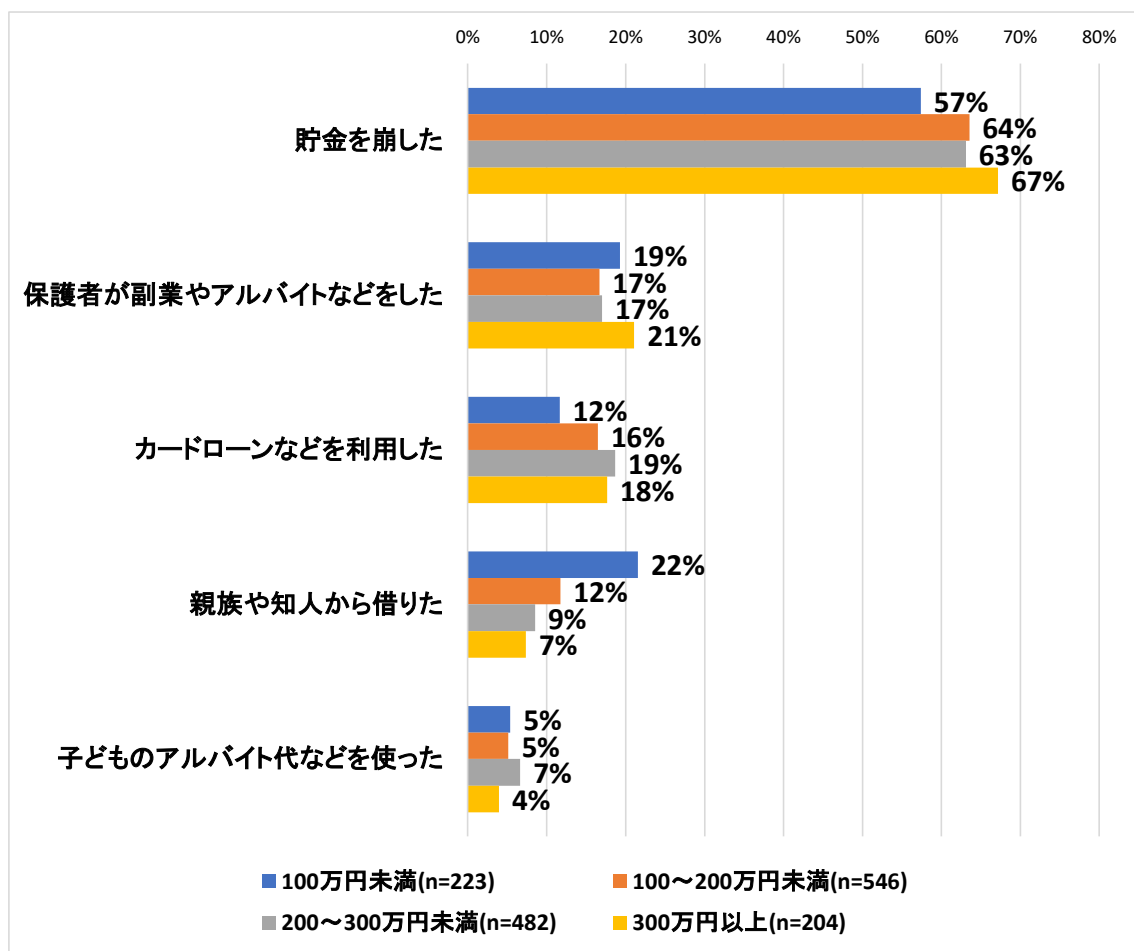


図 18 【世帯所得別】生活費の増加額をどのように工面したか（複数回答）⁸

3.2.3 夏休み期間中に経済的な面で大変だったこと

夏休み期間中、経済的な面で大変だったこととして最も多かったのは、「旅行やレジャーなど子どもに夏休みらしいことをさせてあげられなかった」であり、80%の家庭が選択した。「子どもを優先し、保護者が十分な食事を取れなかった」（51%）、「子どもにエアコンの使用を控えてもらうなど、猛暑への対応が十分できなかった」（46%）、「子どもに十分な食事を与えられなかった」（43%）といった、健康に関わる事項も4～5割程度が選択している。

世帯所得別では、「旅行やレジャーなど子どもに夏休みらしいことをさせてあげられなかった」、「子どもを優先し、保護者が十分な食事を取れなかった」、「子どもに十分な食事を与えられなかった」といった項目で、所得の低いグループほど回答割合が高い傾向が見られた。「所得100万円未満」のグループでは、「子どもを優先し、保護者が十分な食事を取れなかった」が7割を超えた。

子どもの学校種別に見ると、どの学校種でも「旅行やレジャーなど子どもに夏休みらしいことをさせてあげられなかった」が最多であった。小学生では、「子どものために仕事の時間を調整しなければならなかった」（54%）が2番目に多く、半数を超えた。また、食事、エアコンの利用、学習等のほとんどの項目で、中学生・高校生の回答割合が小学生を上回る。成長とともに増える食事の量、学校以外の居場所の不足、学校以外での学習の重要性の高まりなど、子どもの年齢が上がるにつれて、夏休み期間の経済的苦

⁸ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択し、夏休み期間中にふだんに比べて生活費が「増えた」と回答した方が対象。

しさにつながる要因が増えていくことが推察される。食事やエアコンの利用については、子どもが中学生以上になると、やむをえず子どもに我慢をお願いする、子ども自身が遠慮するといったケースも増えてくるのではないかと懸念される。

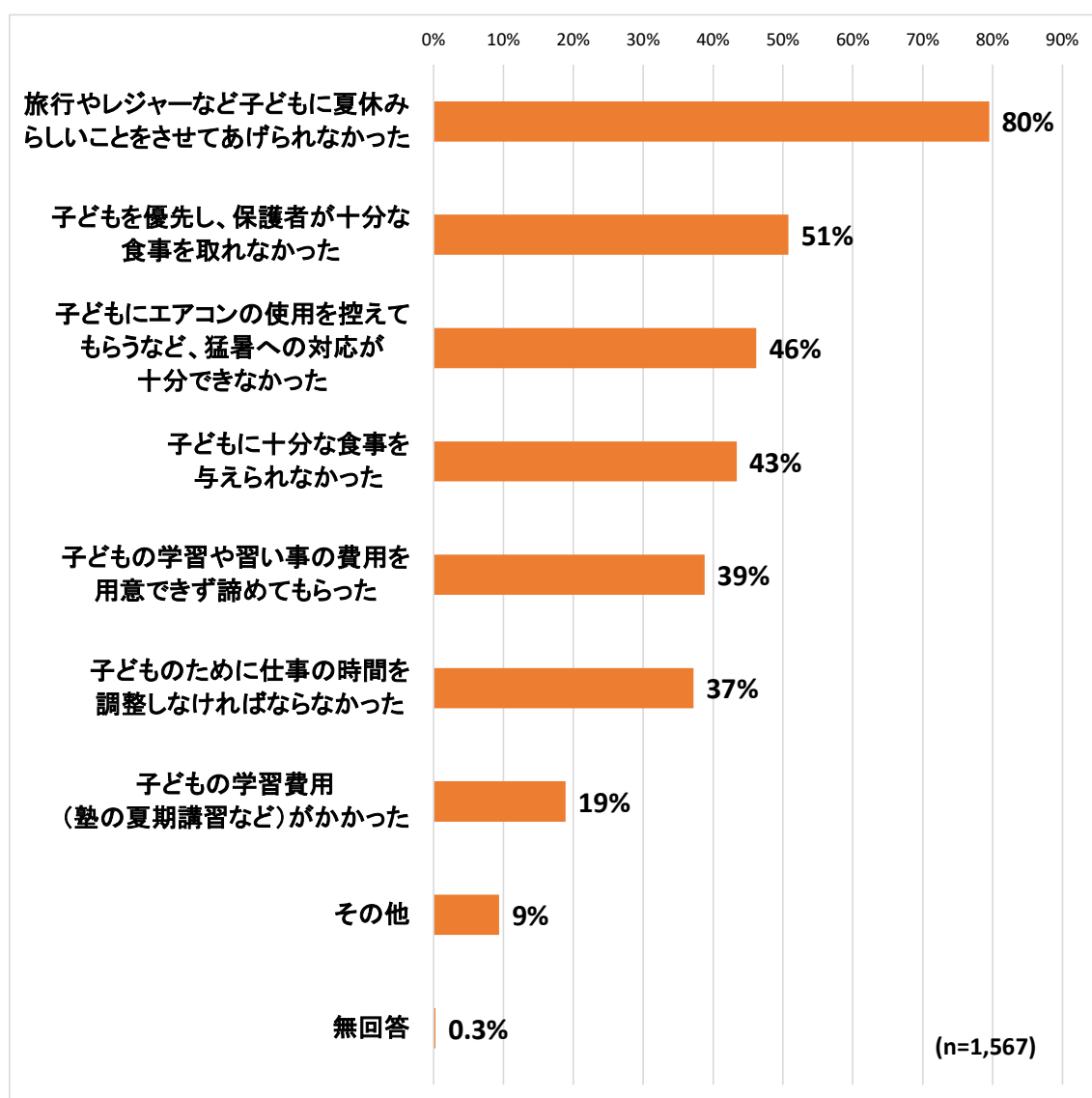


図 19 夏休み期間中、経済的な面で大変だったこと（複数回答）⁹

⁹ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択した方が対象。

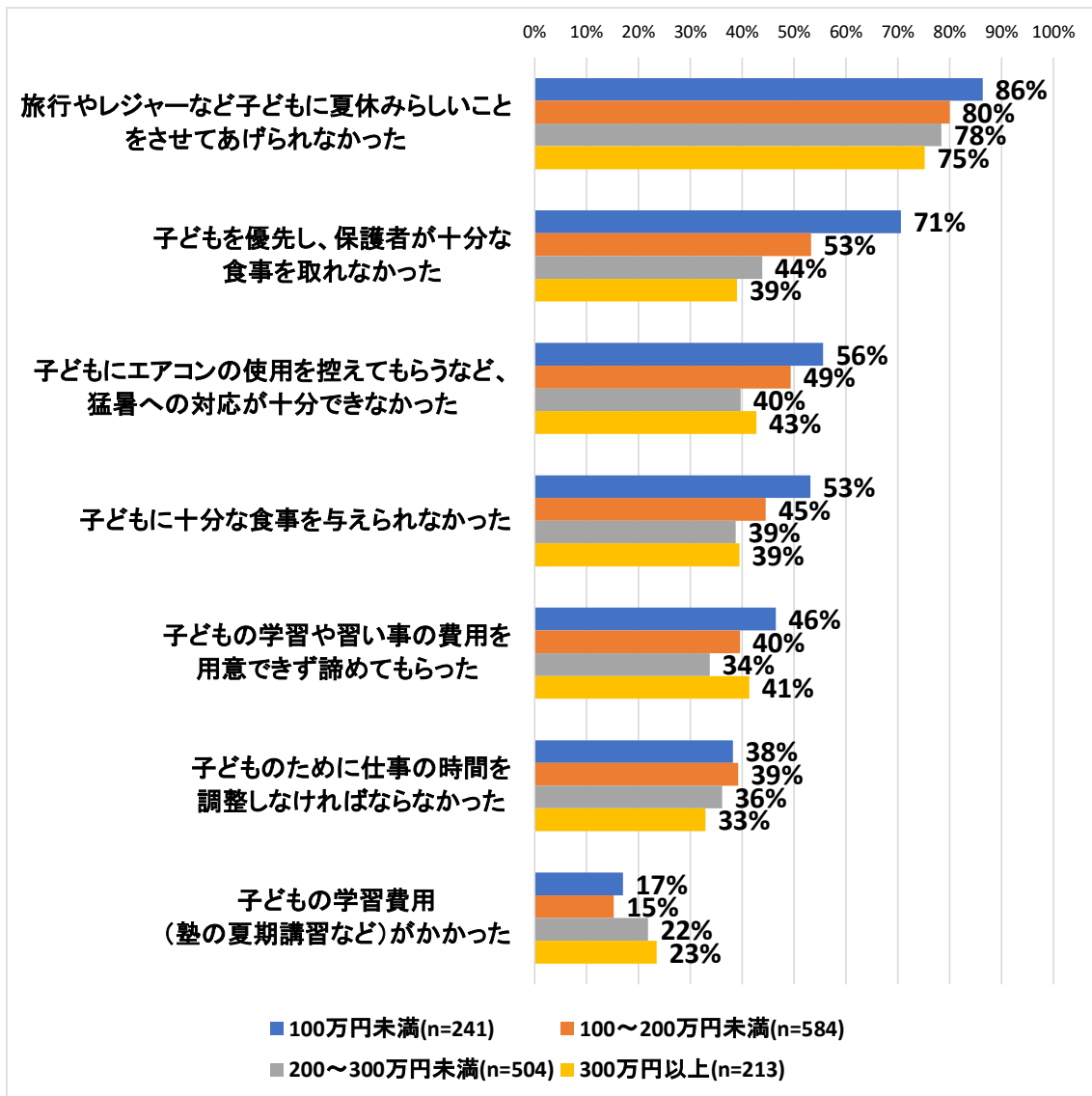


図 20 【世帯所得別】夏休み期間中、経済的な面で大変だったこと（複数回答）¹⁰

¹⁰ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択した方が対象。

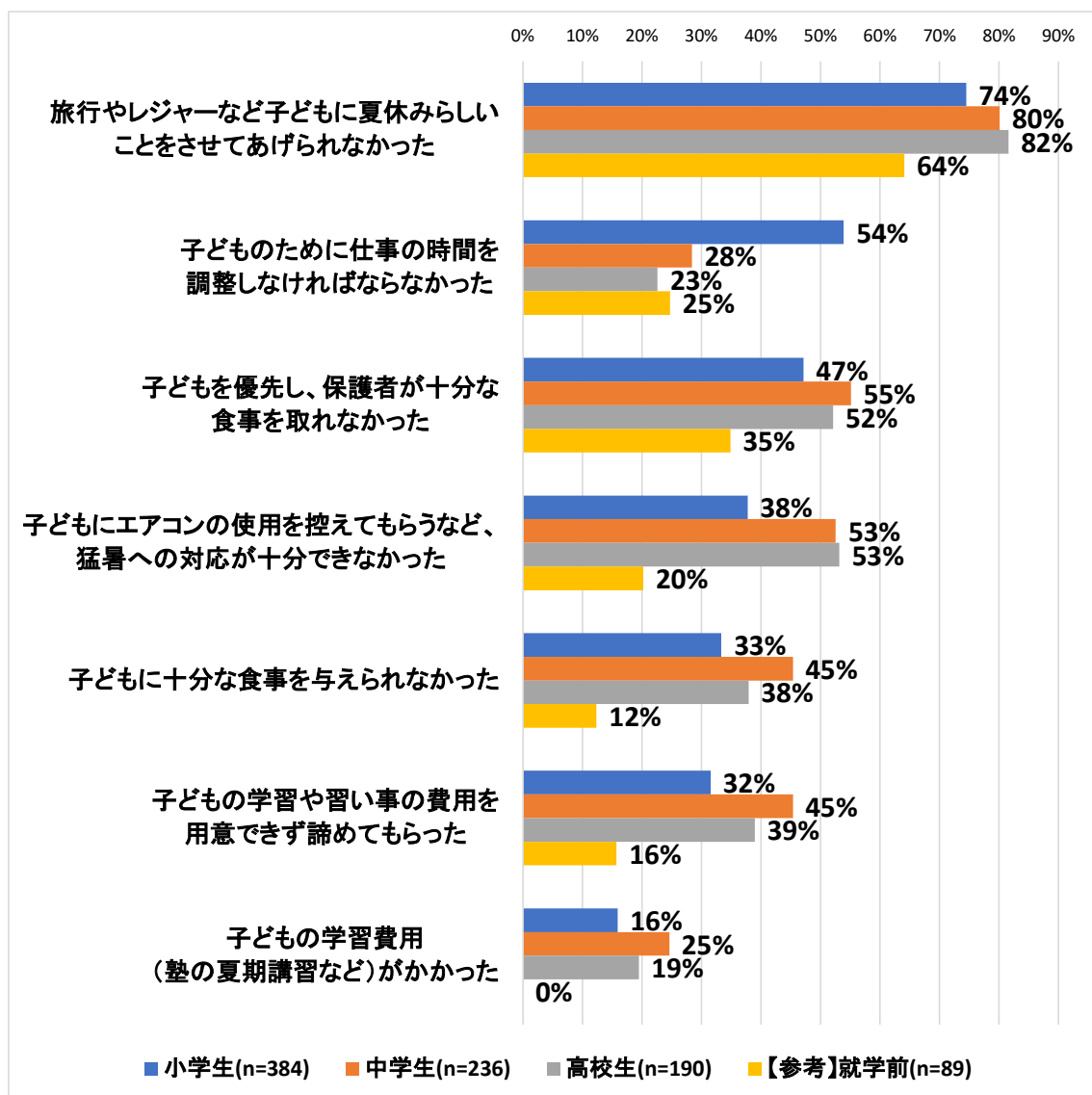


図 21 【子どもの学校種別】夏休み期間中、経済的な面で大変だったこと（複数回答）¹¹

¹¹ 「小学生」は子どもの学校種として「小学校」のみ、「中学生」は「中学校」のみ、「高校生」は「高等学校」のみを選択した方が対象。

3.2.4 夏休み期間中のエアコンの利用

「夏休み期間中、経済的な理由で、暑くてもエアコンをつけずに過ごすことはあったか」という質問に対しては、「ときどきあった」（29%）との回答が約3割と最も多く、「いつもあった、しばしばあった」を合わせると約半数を占めた。世帯所得別に見ると、「いつもあった、しばしばあった」と「ときどきあった」の合計は、「所得100万円未満」で約6割、最も所得が高い「所得300万円以上」でも約4割を占めるなど、困窮子育て家庭の多くが猛暑に対応することができない状態であったことが示されている。

自由記述では、電気代のことを考えてエアコンの利用を控えた、家にエアコンがなく扇風機等でしのいだといった声が多く寄せられた。また、子どもが家計を気にしてエアコンの利用を控えた、エアコンの利用を控えた結果として熱中症になってしまったという回答も複数あった。「猛暑の中冷房を子供ら自らの判断で控え暑さに耐えながら一日が終わるのを待つ様子が見られた」、「昼家にいた子供から痙攣ありと連絡があり早退。病院受診したところ熱中症の疑い。子供たちも家計を気遣って冷房を使わないようにしている。死んでしまっっては元もこもないがギリギリのところでやっています」など、子どもの命に関わりかねない事態が発生していた。

一方で、健康のためにエアコンを利用した場合には、電気代の高騰が家計を圧迫している。「通常の時期の3倍に電気代になりました。健康のために冷房をかけないわけにはいかず、とてもヒヤヒヤしました」、「電気代捻出のため、おかずを減らしたり食事を単品麺類にしたり、栄養面が心配ですが仕方ありません。電気を止められたらもっと困るので」といった切実な声が寄せられた。

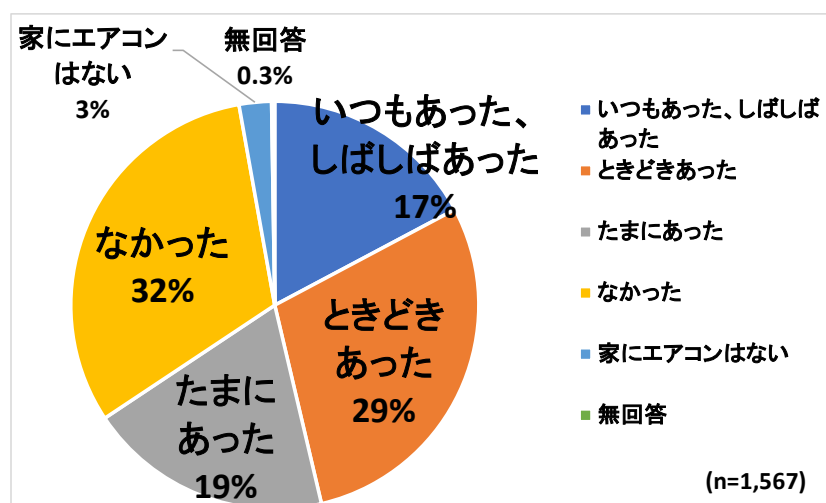


図 22 夏休み期間中、経済的な理由で、暑くてもエアコンをつけずに過ごすことはあったか¹²

¹² 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択した方が対象。

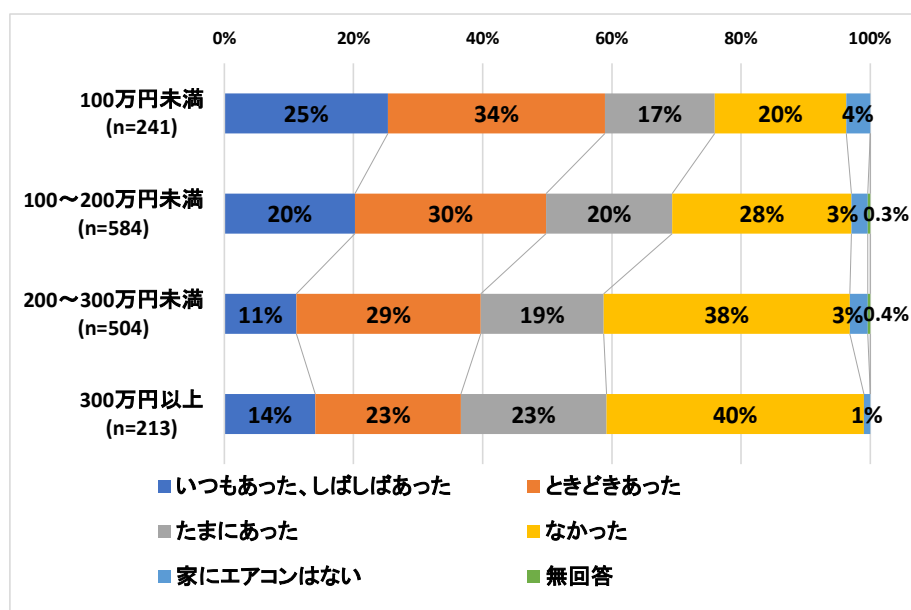


図 23 【世帯所得別】夏休み期間中、経済的な理由で、暑くてもエアコンをつけずに過ごすことはあったか¹³

表 1 夏休みについて印象に残っていること ～エアコンの利用～
(自由記述、一部抜粋・引用者にて編集)

- エアコンがない、エアコンの使用を控えた
- ・ エアコンがないので、とにかく暑くて大変でした。窓を開けても日差しも強く暑いだけで、子供も汗だくで夜も寝苦しくて辛かったです。
 - ・ エアコンがない団地に住んでいるので、夏休み中は子供がずっと体調不良でした。
 - ・ エアコンがない団地に住んでいます。田舎なのでエアコンの補助金等がなく、エアコンも高いので買えず、夜は寝られませんでした。暑い夏休みでした。
 - ・ エアコンなし生活がとてもきつかったです。慣れると室温 30 度でもなんとか生きられることが分かりましたが体力削られます。
 - ・ 猛暑の夏、親子でエアコンの無い家に暮らす日々は体調を心配しながらの毎日…食料も栄養的に決して足りてはいないと思うのでホントにその日生きて、明日元気でいられたら幸せ！と思いたいのですが…やはり世間をみてもお金が無い私達には生きる価値が無い！と言われてる感じがして苦しいです…
 - ・ 今年の夏はかなりの猛暑でしたがクーラーは付けませんでした。光熱費がこわくて付けられませんでした。体調がおかしいと感じる日も何日もありました。
 - ・ 電気代を考えてしまい午前中は暑くても扇風機で昼からつけるとかエアコンを中々使えなかった。
 - ・ とにかく毎日暑くてエアコンを毎日つけていた。少しでも節約になるよう子供に昼から夕方まで祖母の家に行ってもらった。
 - ・ 特に暑かったので、子供達にいつも以上に学童へ行ってもらい涼しい場所にいてもらいました。休みの日は図書館やスーパーへ行くことも多かったです。
 - ・ 北海道なので元々エアコンがなく、年々暑くなるけどエアコンが買えるわけないし、猛暑の影響で夏休みの日数が増えたけどきつと家にいる方が暑い。扇風機と保冷剤でなんとか乗り

¹³ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択した方が対象。

切りました。

➤ **子どもが電気代を気にしてエアコンの使用を控えていた**

- 親に気を使ってエアコンは付けず、扇風機だけで過ごす日が多くありました。これを書いている今日もです。
- 猛暑の夏で、エアコンや扇風機を常に使用させないと熱中症などが心配だった。ただ、娘はエアコン消した方が良い？と聞いてきて遠慮している発言も多かった。何でも高騰の日々で、子ども達に気を使わせてしまっているのが心苦しかった。
- 猛暑の中冷房を子供ら自らの判断で控え暑さに耐えながら一日が終わるのを待つ様子が見られた。無料や低額で利用できる近場での学習、居場所の提供があると嬉しい。
- 例年にない酷暑だったため、私が仕事で家を留守にしている間、「暑いからエアコンを使うように」と言い残して出社しても、「光熱費が高くなるから」とこどもたち自ら極力エアコンを使わずに過ごしていると聞いたこと。
- 印象に残っていることは、仕事から帰宅すると暑い部屋でエアコンも電気もつけずにいた子供達にはびっくりした。
- 転職して給料は上がったが、忙しくなり、気持ちの潤いがなかった上に物価高のため、いつもいつもお金のことを考えていた。子どもは自主的にエアコンを使わないように努力していたので、悲しくて申し訳なかった。
- 家に居るとエアコンの電気代がかかるのを心配した息子は、毎日、図書館や塾の自習室に通いました。その様な心配をかけてしまう事に心苦しいです。

➤ **熱中症や夏バテになった**

- 猛暑なのに思うようにエアコンを使えず親子で熱中症になったこと。猛省です。
- 親の留守中に子どもがエアコンの使用を我慢して熱中症になった
- 昼家にいた子供から痙攣ありと連絡があり早退。病院受診したところ熱中症の疑い。子供たちも家計を気遣って冷房を使わないようにしている。死んでしまっは元もこもないがギリギリのところでやっています。
- 毎日、暑くて子供が家の中で熱中症気味になったりして仕事を休まなくてはいけない事があった。
- とにかく暑くて、でも電気代が高くなるのが恐ろしくて冷房を控えて扇風機のみ。風が熱風で全く涼しくなく夜もあまり眠れなく毎日身体がだるかった
- 費用面でエアコンがつけられなく、家族みんな熱くて倒れそうだった。動くと余計に暑いし、暑さでバテバテでとにかく横になっていた。
- 暑すぎて家族が次々に夏バテになったこと。日中はなるべく図書館などを利用してエアコン代を節約したが、それでも熱帯夜は体調崩さないようにつけていたので、電気代が高かった。
- 暑すぎて電気代がかさんで室温高めになると熱中症になり、医療費もかかるので大変だった。子供が精神的に不安定になって大変だった。

➤ **電気代が増えた**

- 熱中症が心配で子どもにもエアコンの使用を控えさせたくなかったので、光熱費などの支払いが遅れたり困難な時がありました。
- 毎日エアコンつけっぱなしで毎月の電気代見るのがこわかった。
- とにかく暑くて、エアコンをつけないわけにはいかなかった。光熱費がものすごく上がった。来月の支払いも心配。

- 北海道でも今年の夏は暑い日々なのでエアコンをよく使いました。電気代が上がって生活費が高く感じました。
- 東北も暑さが酷くてエアコンは未だに必須です。なるべく使わないようにしていますが電気代は恐ろしい金額でした。
- 電気代が高い。でもエアコンつけないと暑くて過ごせない。どうすることもできない悪循環。
- 通常の時期の3倍に電気代になりました。健康のために冷房をかけないわけにはいかず、とてもヒヤヒヤしました。
- いつもより暑い夏なので、光熱費がとてめにかかった。電気代は死活問題。生活保護費の夏期加算が欲しい。
- 今年は特に暑くて、エアコンを止めることができない日が続いています。子供の体調など考えるとガマンもさせられず、電気代の請求が怖い。電気代捻出のため、おかずを減らしたり食事を単品麺類にしたり、栄養面が心配ですが仕方ありません。電気を止められたらもっと困るので。
- 電気代が想像を超えていたのには焦りました。平日の日中は、図書館に行っており節約していたはずでしたが、帰宅後から朝出かけるまでエアコンはつけっぱなしが原因でした。暑くなれば、水道量も増えました。夏休みが始まり、子どもたちは喜んで、親は真っ先に、夏休み早く終わってーと思っていると思います。
- 今年は受験生のため、夏休み前に部活も引退。子どもは塾へも行かず、毎日家に居たため、エアコンにかかる光熱費が普段の2倍以上かかりました。熱中症などの心配を考えると、使用を控えることもできず、仕方がないと思うのですが…この物価高の中、急にお給料が上がるわけではないですし、どこか頼れる先があるわけでもないですし、この先更に物価や光熱費の値上がりが続くとしたら、どう対応していけば良いのやらと考えてしまいます。

3.2.5 夏休み期間中の子どもの食事

「夏休み期間中、経済的な理由で、子どもの食事の量や回数を減らすことはあったか」という質問に対しては、「あった（週1～2日）」（29%）との回答が約3割と最も多い。子どもの食事を減らすことが週1回以上あった世帯は58%を占めた（「あった（週5日以上）」・「あった（週3～4日）」・「あった（週1～2日）」の合計）。

世帯所得別に見ると、所得の低いグループほど子どもの食事を減らしており、週1回以上あった世帯は、「所得100万円未満」で71%、最も所得が高い「所得300万円以上」でも47%と半数近くを占めた。

自由記述では、給食がないことで食費が増えた、食事の量が減った、栄養が偏ったといった声が非常に多く寄せられた。「食事でも夜は必ず食べさせられたけども、朝と昼は食費を気にしてしまい出せたり出せなかったりしてしまい、子供に申し訳ない気持ちでいっぱいでした」、「毎日のようにお腹すいたお腹すいたと言われ親としても前半は頑張ったが後半は費用なども考え、申し訳ないが沢山寝てもらって1日2食にしてしまった」など、子どもが1日3食を食べられていない家庭がある。また、「1学期より身長が伸びていても、体重がほとんど増えなかったので2学期は痩せ型体型と指摘される事が毎年繰り返されていて、成長期なのに夏休みは給食のように栄養のある食事を食べさせてあげられていないからなんだと思うと辛くなります」、「中学一年生の子供が夏休みに入ってからすぐ、栄養不足で体力的にも部活動についていけず、熱中症になり、練習の欠席が続く…みんなより出遅れてしまい、夏休み明けに退部したのが可哀想でした」といったように、すでに子どもの成長や健康状態に悪い影響が出てしまっていることを伝える声も見られた。

なお、このように厳しい食料事情の中で、民間団体や自治体の食料支援が役立ったとの回答も寄せられ

ている。高騰している米の支援が助かった、心が温かくなったなど、夏休みの食料支援が困窮子育て家庭の食生活や心の支えとなっていることがうかがえる。

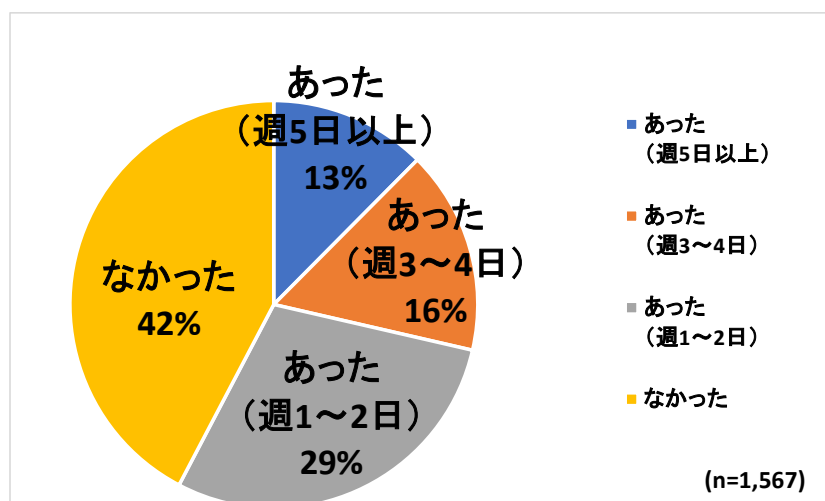


図 24 夏休み期間中、経済的な理由で、子どもの食事の量や回数を減らすことはあったか¹⁴

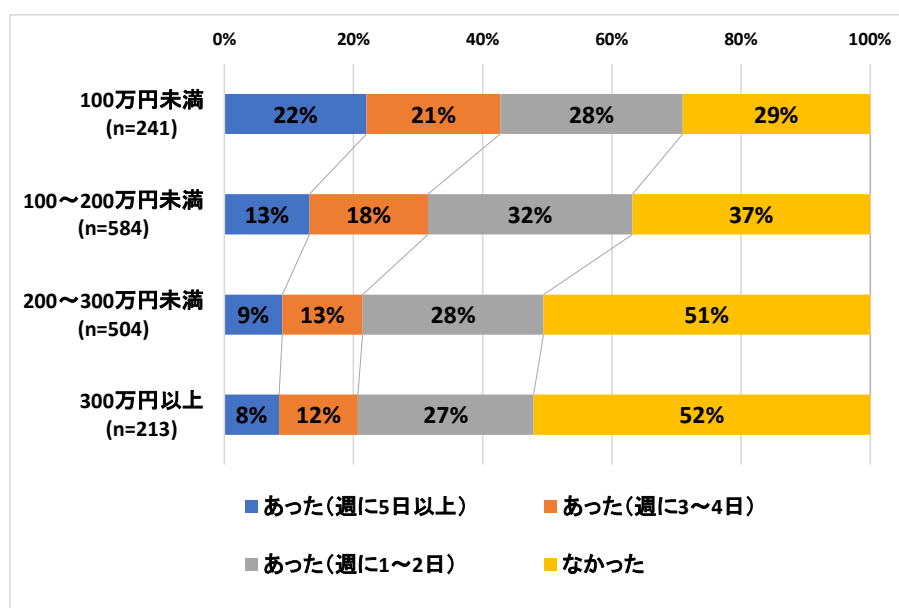


図 25 【世帯所得別】夏休み期間中、経済的な理由で、子どもの食事の量や回数を減らすことはあったか¹⁵

表 2 夏休みについて印象に残っていること ～食事～
(自由記述、一部抜粋・引用者にて編集)

- 昼食を準備する費用・手間が増えた
- ・ 昼食の用意が金銭的にも労力的にも大変だった。
 - ・ 学校がないので給食がなく、食費が普段の倍近くかかって、私の食事を1食にしてなんとか対応しました。

¹⁴ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択した方が対象。

¹⁵ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択した方が対象。

- ・ 我が家だけではないと思いますが、子供の食事作りが一番大変でした。洗い物や後片付けに追われ、1日がそれだけで終わってしまうような感覚でした。
- ・ とにかく食事の用意が大変でした。経済的なところもそうですが、私自身の体力面でも、夏休みは家のこと、仕事もどちらも負担が大きく、子どもたちに気を遣わせていたことが心苦しかったです。
- ・ 給食があったお昼の食費が夏休み期間で子供ひとりあたり一万円はこえている…子供たち3人みんなが小学生になったら夏休みの生活費がどうなるのか今から不安になりました。
- ・ 給食がないので毎日ご飯がいるのでお米が高くて大変でした。
- ・ 物価高騰の影響でいつにも増して食費がかかってきています。夏休み中でも希望者には給食を提供してもらえるようにしてもらえると助かります。また猛暑の影響でエアコンも使わなければならず電気代が高額になってキツイです。来年は学童にも通えなくなる学年なので、今年以上に電気代・食費が高くなるのが恐ろしいです。
- ・ 食費がかなりかかりました。高齢者の低額なお弁当配達を、困窮世帯も使えたらいいのになと思います。学童のお弁当費補助、学童の費用の無償化もお願いしたいです。

➤ 食事の量が減った、栄養が偏った

- ・ 何もしてあげられなかった。食事も夜は必ず食べさせられたけども、朝と昼は食費を気にしてしまい出せたり出せなかったりしてしまい、子供に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。
- ・ 毎日のようにお腹すいたお腹すいたと言われ親としても前半は頑張ったが後半は費用なども考え、申し訳ないが沢山寝てもらって1日2食にしてしまった。
- ・ 自分の疲労もあり、子どもたちのお昼ご飯を用意してあげられない日がありました。カップ麺を半分ずつ食べた日もあったようで、申し訳なかったです。
- ・ 2学期になり身体測定があるのですが、1学期より身長が伸びていても、体重がほとんど増えなかったので2学期は痩せ型体型と指摘される事が毎年繰り返されていて、成長期なのに夏休みは給食のように栄養のある食事を食べさせてあげられていないからなんだと思うと辛くなります。
- ・ 偏った食事になり、たくさんご飯を食べさせてあげられなかった。
- ・ 物価高に苦しめられた夏休みでした。子供達には出来るだけ、バランスのとれた食事をとらせて上げたいと思っていてもお昼はカップラーメンで済ませてしまうことが多々ありました。本当に申し訳ないと思いました。一生懸命働いてもお給料は変わらず、支出だけが増えていきます。何を我慢するかって親の食べるものです。今年の夏休みはご飯と納豆という日がとても多かったです。美味しいものを食べたい、栄養価のとれた物を食べたいと思ってもお金がありません。本当に物価高には勘弁です。
- ・ 中学一年生の子供が夏休みに入ってすぐ、栄養不足で体力的にも部活動についていけず、熱中症になり、練習の欠席が続き…みんなより出遅れてしまい、夏休み明けに退部したのが可哀想でした。
- ・ 夏休み唯一実家へ一緒に帰省しました。ふだんお腹いっぱい食べさせる事をしていないから、母の手料理をこんなに食べられるんだって思うくらい息子は食べていました。帰って来てからまた痩せていくのを感じました。私の食事の分を減らして息子にあげていますが、いつか回転寿司でも焼き肉でもお腹いっぱい食べさせてあげたいです。
- ・ 家族全員体重が減ってしまった。

➤ 食料支援に助けられた

- ・ 県からの食糧支援がありがたかったです。

- キッズドアにお米などの食品を助けてもらえたので、嬉しかった。なにより心が温かくなったのが、一番嬉しかった。誰か思ってくれている人がいる、と分かり、今日も生きようと思えた。
- 米の高騰の中、お米の支援をしていただき、本当に助かりました。お米の心配がかなり軽減されて、その分おかずを買うことができました。
- お米や、食料の高騰等、夏休みの昼食代と食費に出費がかさみました、食料支援を頂き、お米やレトルト食品が届いて子供達の昼食になる安心感、子供達は普段我慢しているお菓子を見つけ、嬉しそうな顔で喜んでいる顔が忘れられません。
- キッズドアさんには夏休み期間に食料支援をして頂き、お米が高騰して食べられなかった中主食をたくさん頂きとても助かりました。高校受験を控えている為夏期講習など勉強のため貯金を切り崩しての生活でしたので非常に助かっておりました。
- サポートがなければ、子供たちの食べる物が保証されなかった部分があったから、本当に助かりました。
- 地域のこども食堂にたくさん助けられました。お米をいただけたときもあり、大変ありがたかったです。

3.2.6 夏休み期間中の子どもの体調や様子

約半数が、夏休み期間中に子どもの体調や様子に気になるところが「あった」(48%)と回答した。その具体的な内容として多かったのは、「イライラするなど精神的に不安定になった」(54%)、「熱中症や夏バテになった」(52%)であり、いずれも気になるところが「あった」とした世帯の半数超が選択した。次に多かったのは、「夏休み明けに学校の行き渋りがあった」(37%)であった。また、「体重が減った」(22%)との回答も、気になるところが「あった」とした世帯の約2割、小中高生がいる世帯全体では約1割に上ることが分かった。

世帯所得別に見ると、「熱中症や夏バテになった」と「体重が減った」は、所得が低いグループほど回答割合が高く、特に、「体重が減った」は「所得100万円未満」で3割に達した。ただし、「所得300万円以上」のグループでも、「熱中症や夏バテになった」は約半数に達し、「体重が減った」も19%と、少なくとも子どもが夏休み期間中に健康に生活できていなかった状況が示されている。

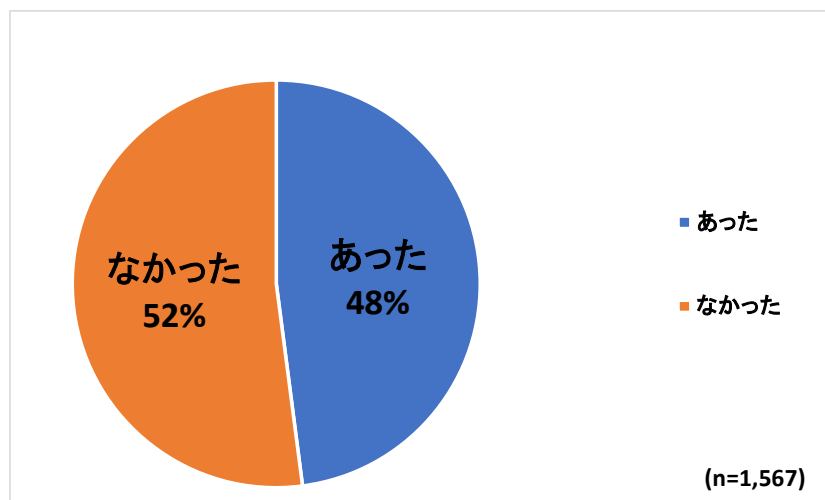


図 26 夏休み期間中、子どもの体調や様子に気になるところはあったか¹⁶

¹⁶ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択した方が対象。

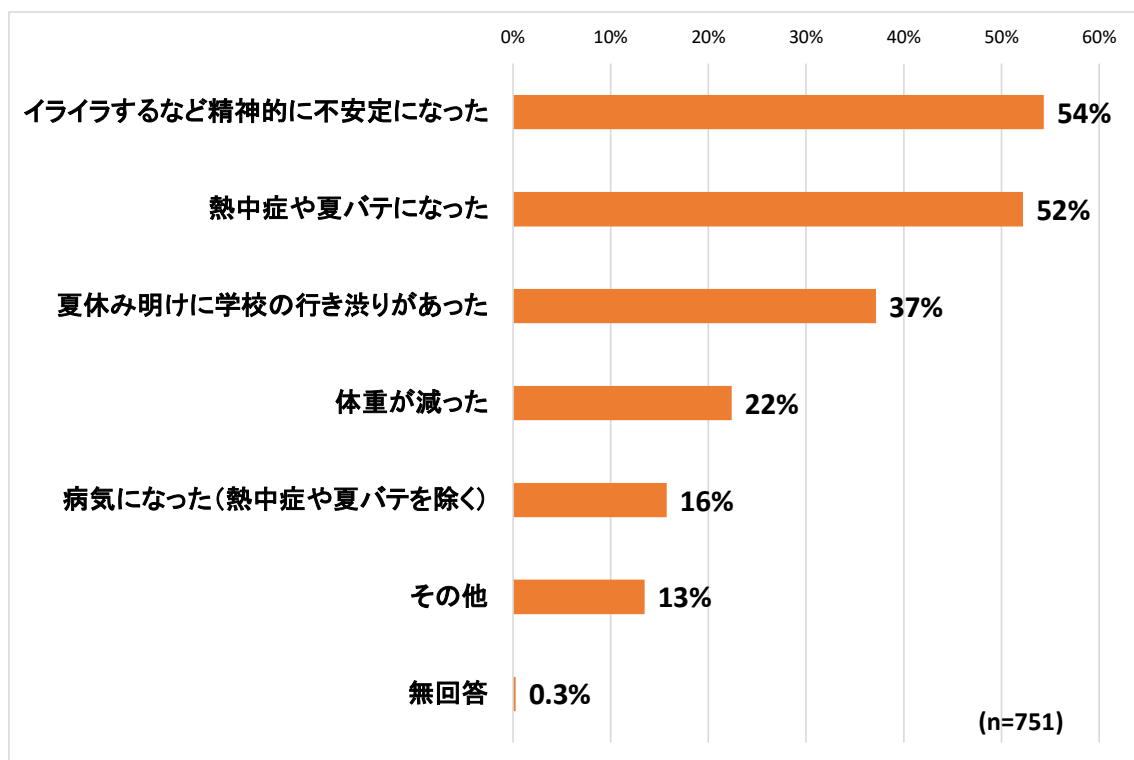


図 27 子どもの体調や様子について気になった具体的な内容（複数回答）¹⁷

¹⁷ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択し、夏休み期間中に子どもの体調や様子に気になるところが「あった」と回答した方が対象。

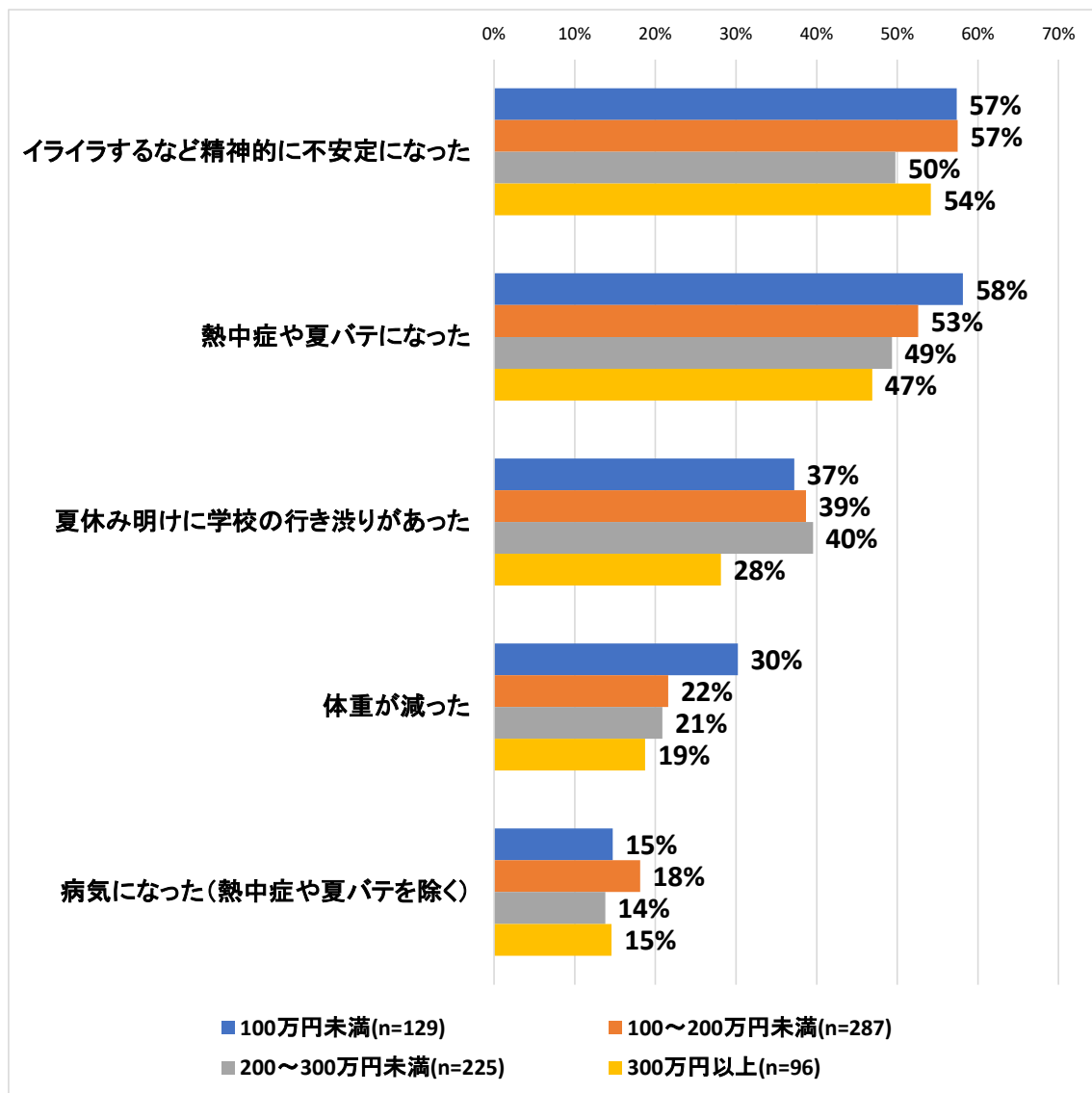


図 28 【世帯所得別】子どもの体調や様子について気になった具体的な内容（複数回答）¹⁸

3.2.7 夏休み期間に希望する支援

夏休み期間に希望する支援として最も多く挙げられたのは「食料クーポンなど食費の支援」（82％）であり、「旅行や映画、レジャーに使えるクーポンなどの支援」（58％）が続いた。「学童、子ども食堂、居場所等で毎日無料の食事の提供」（34％）と「夏休み期間中の学校の開放と給食の提供」（28％）も約3割が選択した。

世帯所得別に見ると、いずれの所得のグループでも、上位3項目は「食料クーポンなど食費の支援」、「旅行や映画、レジャーに使えるクーポンなどの支援」、「学童、子ども食堂、居場所等で毎日無料の食事の提供」で共通であった。

子どもの学校種別でも、学校種を問わず、上位2項目は「食料クーポンなど食費の支援」、「旅行や映画、レジャーに使えるクーポンなどの支援」で共通である。一方で、3位は、小学生では「学童、子ども

¹⁸ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択し、夏休み期間中に子どもの体調や様子に気になるところが「あった」と回答した方が対象。

食堂、居場所等で毎日無料の食事の提供」、中学生では「夏休み期間中の学校の開放と給食の提供」、高校生では「塾や習い事に使えるクーポン等の支援」・「無料塾などの学習支援」であった。

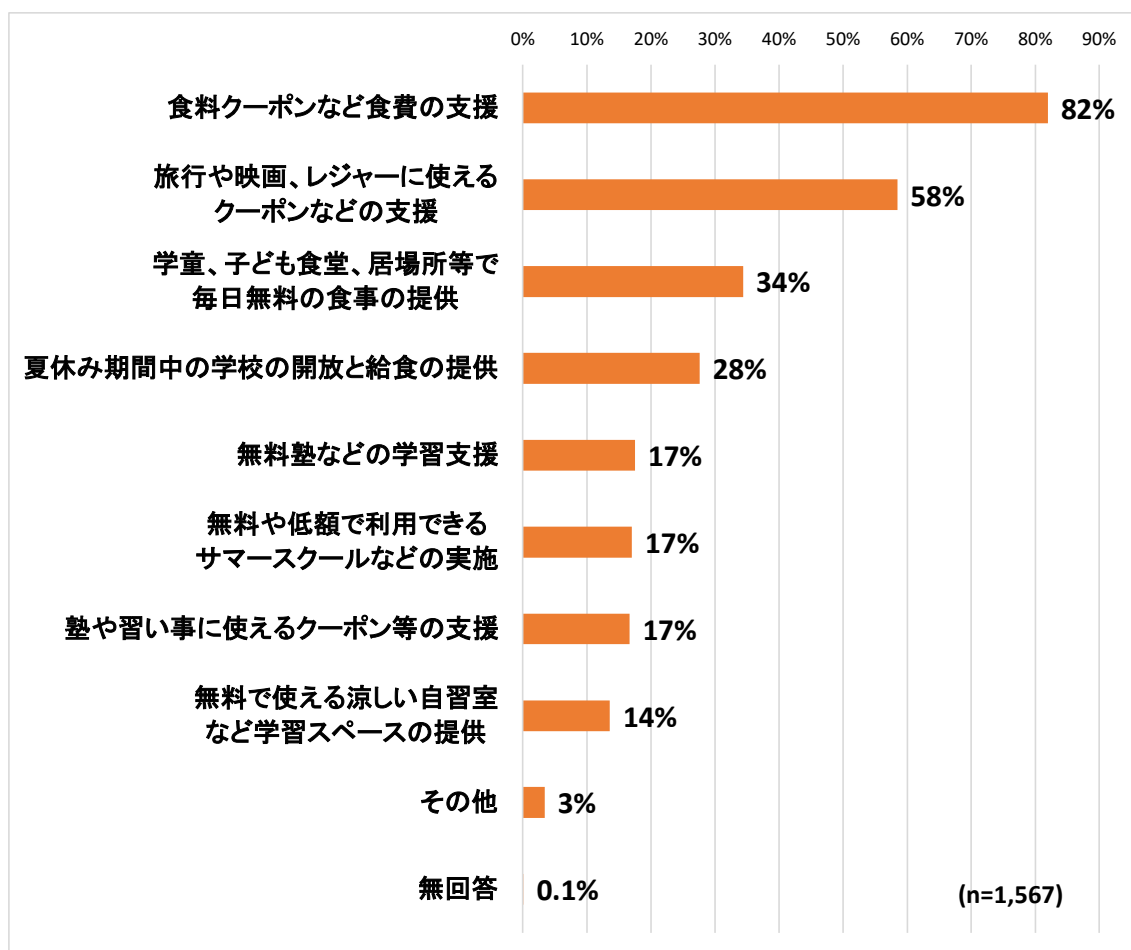


図 29 夏休み期間に希望する支援（最大3項目までの複数回答）¹⁹

¹⁹ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択した方が対象。

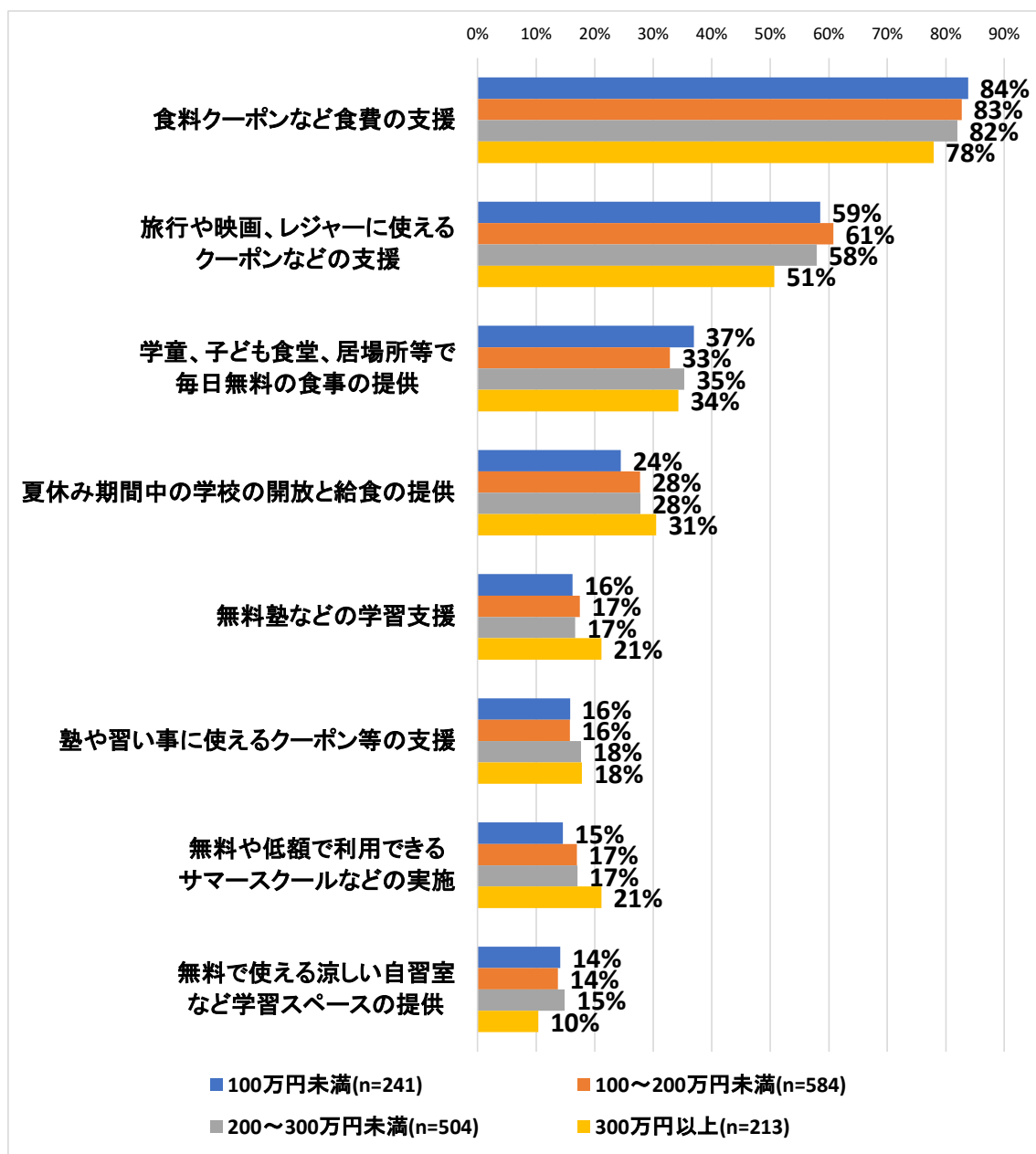


図 30 【世帯所得別】夏休み期間に希望する支援（最大3項目までの複数回答）²⁰

²⁰ 子どもの学校種として「小学校」・「中学校」・「高等学校」のいずれかを選択した方が対象。

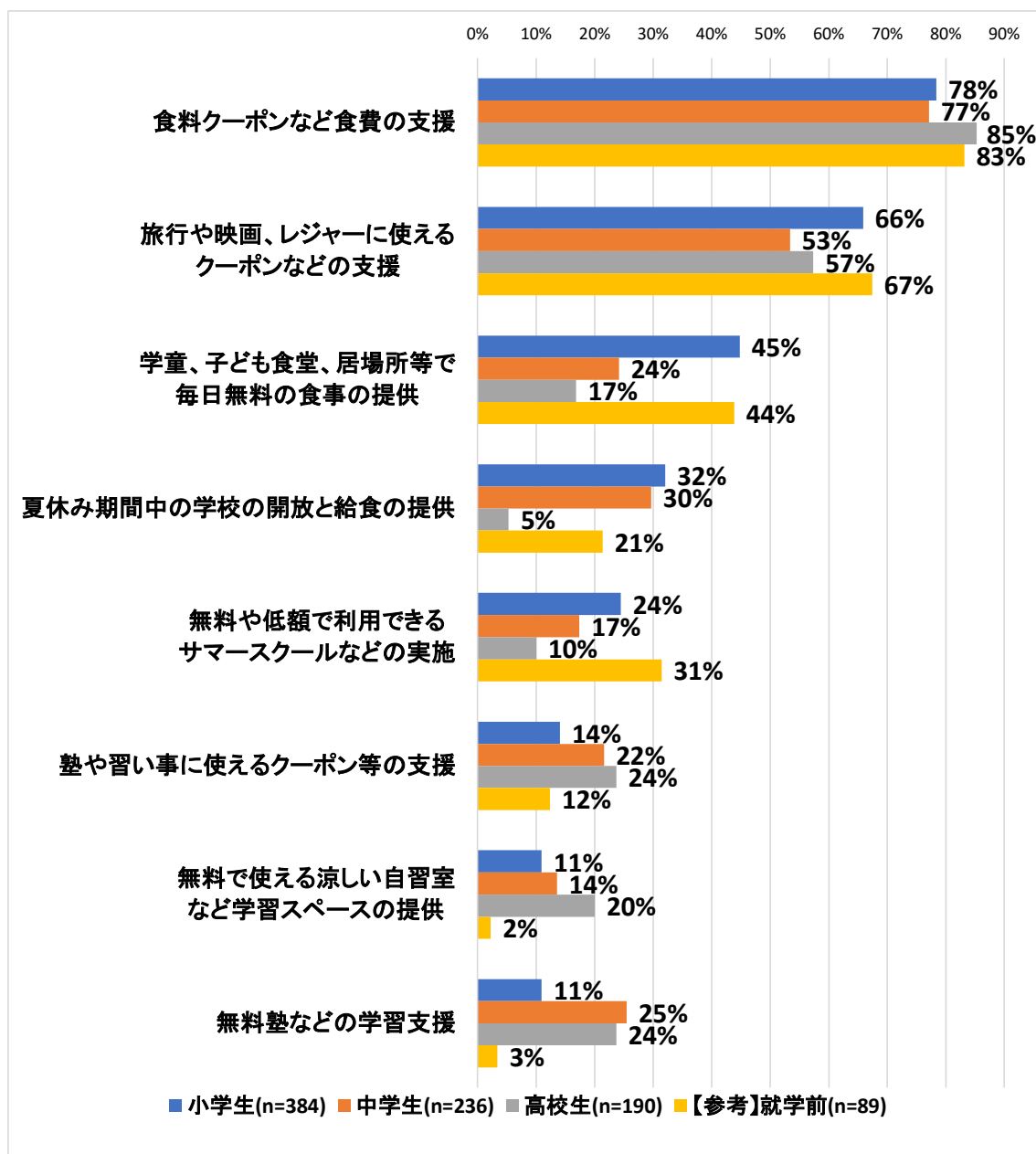


図 31 【子どもの学校種別】夏休み期間に希望する支援（最大3項目までの複数回答）²¹

3.3 夏休みについて印象に残っていること

夏休みについて印象に残っていることとして、生活の苦しさを伝える声が非常に多く寄せられた。「夏休みは毎年同じで旅行やレジャーなど全くできずに終わりました。必死に月5日しか休まず仕事をしましたが4人家族で19万の給料で暮らしているため毎月赤字でこれ以上は生活費がなく破綻が目の前でひとり頭を痛めています。養育費も支払われず死のうかと考えてしまいますが子供達をおいていけません」、「夏休み中は毎日家にいて、猛暑なのでエアコンをずっとつけている状態です。つけずに我慢をさせても、熱中症になり大切な子供を危険にさらすわけにはいけません。子供たち優先でいるので、自分の食事の回数や量を減らしています。夏休み中は早く起こさなくていいので、仕事に行く前に単発バイト

²¹ 「小学生」は子どもの学校種として「小学校」のみ、「中学生」は「中学校」のみ、「高校生」は「高等学校」のみを選択した方が対象。

を早朝にいれて食費にまわしたりしていました。倒れないようにだけ気をつけています」など、保護者が追い詰められている状況が伝えられている。

旅行やレジャーなどの夏休みの体験では「どこにも行くことができなかった」という声が多く見られた。夏休みらしい体験をさせられなかったことに加え、夏休みの宿題である絵日記や作文、夏休み明けの友達との会話などで、子どもが悲しい思いをしていることに保護者は胸を痛めている。また、支援団体の体験プログラムを利用したとの回答、少数ではあるが家庭で節約や工夫をして体験の機会を作ったとの回答も見られた。

夏休みの学習では、塾費用が負担、夏期講習に行かせられない、学習支援や学習できる場がほしいといった声が寄せられた。また、家に Wi-Fi がなく、タブレットを使った課題をするためにフリーWi-Fiのある所に出向いたとの回答もあった。

夏休みの子どもの居場所について、学童の費用が負担である、学童が利用できなくなってからの居場所の確保について困っているとの回答が寄せられた。また、猛暑が続いたことから、学校の開放も含めて、子どもが涼しく過ごすことのできる居場所を求める声もあった。子どもの居場所がないことは保護者の就労にも影響している。子どものために仕事を調整して収入が減ってしまう、子どものために仕事をやめたり正社員からパートに変更しなければならないのではと考えているという声も見られた。

夏休みの経済的苦しさの中で、現金給付を求める声もあった。また、18 歳以上の子ども、ふたり親の多子世帯、住民税非課税ではない世帯など、苦しいにも関わらず支援の対象から外れることの多い世帯からは、支援対象の見直しを求める回答が寄せられた。

表 3 夏休みについて印象に残っていること
(自由記述、一部抜粋・引用者にて編集)

➤ 苦しい夏休みだった ・とにかく苦しかった。とても暑い部屋。満足に買えない食料。クラスの子は旅行や遊びに行ってるのに行けない。 ・数万円しかない貯金でしたが、長い夏休みの食費で全て使い果たしました。この先不安しかありません。 ・口座が底をつきて支援の食料で食いつなぐしかなかった。 ・夏休みは毎年同じで旅行やレジャーなど全くできずに終わりました。必死に月 5 日しか休まず仕事をしましたが 4 人家族で 19 万の給料で暮らしているため毎月赤字でこれ以上は生活費がなく破綻が目の前でひとり頭を痛めています。養育費も支払われず死のうかと考えてしまいましたが子供達をおいていけません。これ以上生きていけません。 ・今年の夏休みは特に親子で体重が激減しました。熱中症で、辛かった日も多く、学校が始まって、子供は大喜びでした。夏休みは本当に地獄です。なくなってほしいです。子供も夏休みは大嫌いだと言っています。 ・何処かに出かけることは全く出来ず、毎日の食費、生活費のことで頭がいっぱいでした。お風呂は勿論シャワーも週に 2~3 回程度にして、汗をかいても体を拭いて過ごしていました。食事は 1 日 2 回で、私は子供に食べさせるために 1 回の時も度々あり 3 ㎏ 痩せてしまいました。また今月も値上げ値上げで、毎日がお金のことで頭いっぱいです。贅沢をしたい訳ではありませんが、子供達に 1 日 3 度の食事、3 時のおやつ、お風呂に入って清潔にして寝る、もう叶わない夢ですね。特に下の子は生まれてから 1 度も叶ってません。本当に情けないです。 ・テレビやラジオでは『猛暑なので命の為にエアコンを使って下さい』と何度も聞きました。命の為に電気代と命の為に食費のどちらが大事なのか考えた夏でした。公共交通機関も発達

してない地方では、友達と出かけるのも親の送迎が必要です。送迎すると、収入が減る。公共交通機関を使っても、運賃が高いから渡せない。必然的に、子供は友達と出かける事が出来なくて淋しい夏休みにさせてしまいました。

- とても暑くどこかに出かける事が難しかったです。家にいると光熱費が気になりました。子供が利用出来る施設（図書館や児童館など）も昔より少なく過ごしにくさを感じました。食料もどうしても手軽にお腹にたまるものを選びがちで栄養の偏りが気になりました。子供ですのアイスやお菓子の要求もありできる範囲で応えたい気持ちと家の経済状況で悩みました。小麦粉を練って焼いたものなどでしのいだりもしました。夏休み明け成長して上履きや靴が窮屈になっていて喜んであげたいのに手放しで喜べず、自分にガッカリします。家賃や光熱費を頭を下げてお願いし何とか先延ばし先延ばしにしていますがまた来月に回るだけで苦しい日々です。
- 夏休み中は毎日家にいて、猛暑なのでエアコンをずっとつけている状態です。つけずに我慢をさせても、熱中症になり大切な子供を危険にさらすわけにはいけません。子供たち優先でいるので、自分の食事の回数や量を減らしています。夏休み中は早く起こさなくていいので、仕事に行く前に単発バイトを早朝にいらして食費にまわしたりしていました。倒れないようにだけ気をつけています。
- 生活費のために本業が終わった後に夜もバイトで働いた。夜のバイト中に体調を崩したが病院に行くお金もない。中学入学にかかった費用の借金返済に勤しんだ夏だった。
- 体調の為にはいくら経済的にキツくてもエアコンを使わないわけにはいかなかった。電気代の為に自分の食費を削った。光熱費も高い、食料も高い、生活用品も高い、どうやって暮らしていけばいいのかわからない。子供の健康だけでも守りたい。子供が、涼しい場所で満腹じゃなくてもいいから昼食を取らせてもらえる場所がほしいです。
- これからどうやって夏休みにかかった出費や新しく組んだローンを支払っていけばいいのかわかりません。支援は本当に感謝していますが、物価高で値上がりばかりでこのまま子ども達の我慢や不満無く育てていける自信がありません。
- とにかく暑かったので冷房をつけっぱなしの日々で電気代が怖い。子供が熱中症にもなり生活することが大変でした。夏休みだから子供と過ごす時間を増やしたいけれど、遊びのために年休を使ってしまうと子供の急な呼び出し等の時に欠勤になってしまったり給与に影響が出ることを考えると夏休みらしいことはできませんでした。来年は近場でも旅行に連れて行ってあげられたらいいと思います。

➤ 夏休みの体験① 夏休みらしい体験をさせられなかった

- どこにも連れて行けず学校が始まって友達にどこか行ったか聞かれて悲しかったと子供に言われた。親としても悲しかった。
- 花火大会等、何も参加ができなかった。地元のお祭りへ行っても屋台の食べ物が高く買ってあげられなかった、悲しかった。
- ひとり親になってから夏休みに一度も旅行に連れて行ってあげられず、毎年夏休みの絵日記に困っている様子を見て心苦しいです。格差を感じて子供に申し訳ないと思っています。
- 夏休みは、他のご家庭では旅行などイベントをしている場合が多く、学校でもそれを前提に課題・宿題や話題を出してきます。経済的、時間的、体力的に余裕がなくなかなか子どもにそのような夏休みならではの体験をさせてあげられず、自業自得ではあるのですが親としてはかなりプレッシャーを感じるころはあります。
- お盆期間中も仕事で保育園に預けていました。休みを取って、子供との時間を取りたい気持ちと収入の心配で休みたいくない気持ちがあるのと、子供の急な体調不良やイレギュラーな保

育園でのケガなどで休ませてもらう事が多いので、ただ子供と過ごしたいから休みたいという事ができなかったです。また、職場にひとり親である事の事情を理解してもらいにくいのも、休みがとりづらい理由かなと思います。お友達は、おじいちゃんの家に行ったとか旅行に行ったという話をしているので、何も思い出を作ってあげられてなくて申し訳ないです。

- 夏休み明けに子どもが学校に行くと、友だちから旅行のお土産をもらって帰ってきて、お返しのプレゼントをあげた方が良いのかなあ？と聞いてきました。うちはお土産をお友だちに渡せるようなイベントがなかったために子どもを悩ませたり悲しませる事も辛かったです。
- お盆休みギリギリまで仕事をしてほとんど子供達と出掛けたりする事は出来ませんでした。周りの子達は色々な所に行って楽しそうな作文等を見てとても申し訳なく、また自分が情けなくなりました。その為子供からなんでうちはどこへも行けないの？と言われ胸が詰まる思いでした。
- 夏休みは全く親子で外出してないです。子ども達が受験生の為、進学にお金を使うので思い出作りは出来てないし進学で出費は多くなるし光熱費も高かったので我慢するしか無かった。
- 今年は、来年度小・中・高の入学が3人も重なっているので、入学費等に貯金しないと行けないためどこにも、何もせず、ずっと家で引きこもって過ごしたため何も思い出がない。入学費や入学準備用品等も準備できるのかとても不安である。

➤ **夏休みの体験② 節約や工夫で体験の機会を作った**

- 毎年ですが夏休みのレジャー費のため、副業をしたり食費を削って工面しています。習い事をさせる費用も送迎の余裕もないので、小学生になるとさらに不安です。
- 1年前からコツコツお金を貯めて、家族と親戚みんなで旅行に行った。
- 普段は朝から夜遅くまで働いていて、ゆっくり子どもと過ごすことができないので、今年は家族でキャンプに行けたことは、子ども達もとても喜んでくれたので、良かったです。その分色々なところを節約したり、自分のことは後回しにして、貯金しましたが、その苦勞が報われた瞬間でした。
- どこにも遊びに連れて行けなかったけど、手持ち花火を買って家の前で花火をしたのが夏の思い出となりました。
- どこにも旅行には行けなかったけど、みんなで雑魚寝して旅館気分を味わったり食べ放題に行ったらホテルビュッフェ気分を味わったりしました。
- 今年の夏はとにかく暑かったので、公園で遊ぶなど低料金で済むレジャーは難しかったです。博物館に連れて行くなど、思い出に残る楽しい時間を過ごしたいなと頑張りましたが、金銭的に余裕があればもっと出来たことがあったのではと思っています。

➤ **体験活動③ キッズドアなど支援団体のプログラムに参加した**

- キッズドアからいただいたサッカー観戦が一番の思い出になりました。できれば旅行など行きたかったですがなかなかお金がかかるため行けなかったのも、おもしろくてよかったです。
- キッズドアでミュージカルを観に行った時に都内まで行ったのが、色々なお店があって刺激的だったようです。ミュージカルも楽しかった！とよく歌を歌うようになりました。こういう体験での支援はなかなか経験させてあげられないので夏休みの思い出にもなってとても助かりました！
- どこにも連れて行けなかったのですが、IT キャンプに当選したのではじめての一人旅、はじめての東京、会社見学などいい経験ができました。ありがとうございます。このような支

援があるのはすごくいいと思います。

- 地域の子ども食堂や居場所事業をやっている団体が町の協力をえて、海に行くバスツアーを計画して下さり、子ども達は初となる海に格安で行けた事です。
- 映画のチケットをもらえたので、映画館で初めてポップコーンとジュースのセットを買って、映画を観た。幸せな気持ちになって、子供が絵日記に描いていたので、本当によかったと思った。
- 今年、キッズドアさんの映画チケットが当たり、久しぶりに親の私も映画鑑賞に行けそうです。いつも映画は子どもたちだけ観せて、私は上映中は外で待っていました。いただいたチケットで観に行く予定で、今からとても楽しみです。

➤ 夏休み中の学習

- 塾に行かせてあげられなかったので、学習環境が整わず、よく寝たりスマホをしたりしていた。親は働いていて日中は1人でいたので、宿題ができずに夏休み終わり頃は辛そうだった。
- 平日午前中の学習習慣をつけることができず、自分が就業中は家でずっとゲームしていた様子。将来が心配です。平日に休みを取りにくいと、午前中から通えるサマースクールがあれば強く願います。
- 夏休みの学習できる場所が欲しい。地方田舎でも参加できる学習の場所、宿題を教えてもらいたい。
- 夏休みの宿題とは別に休み明けの初日から期末テスト前のテストがあり勉強の嵐…勉強についていけない息子に調べながら教えたりしてストレスで頭がおかしくなりそうでした。居場所兼塾みたいな所に週1で行っていますがちゃんとした塾ではないので自習ばかり。本格的な学習支援が欲しいです
- タブレットの課題があり 学校からタブレットを持ち帰ってきていたのですが 我が家はWi-Fi 環境が無く freeWi-Fi のある所に出向いたり大変でした。タブレットを課題で出すならポケットWi-Fi を無償レンタルするなど 何か対策があれば良いなと思いました。
- 受験対策の塾費用が月収の倍になったことでの精神的焦りが子ども達に向かってしまったことへの反省。経済不安が最大限に出てしまった夏だった。
- 猛暑でエアコンをつけないわけにはいかず、子供が日中家で過ごすのでほとんどずっとエアコンをつけていました。食べ盛りなので、補食やご飯にもお金がかかり、物価がすごく上がってしまったので、出かけたりするお金はありませんでした。塾も夏期講習だけでも行かせてあげたかったですが、もう貯金も無いので難しかったです。
- 娘はバイトしていますが夏期講習がありそんなに収入はないのに家に入れてくれました。夏期講習費に消えたんですが…気持ちは嬉しかったです。ただ普通の家庭なら当たり前なのやってあげられなくて悲しくなりました。

➤ 夏休み中の子どもの居場所

- 食費や夏休み過ごす場所に苦労しました。特に学童費は負担になりますが、仕事への影響を考え預けました。来年からは学童に行けない(年齢制限)ので不安です。
- 小学校4年になり、学童が使えなくなったので居場所の心配が増えた。
- いつも仕事中は兄妹でお留守番をお願いしていたが、上の子が高校生になり夏休み中も学校へ行っていたので、下の子が一人で待っている時間が増えてしまった。さみしい、こわいと言うので、働く時間削ったり昼ごはんの時間に一旦帰宅したりしていた。せめて午前中だけでもいいので、学校でクラスのお友達と過ごせると嬉しい。と思いました。

- 子どもが小学生のうちには色々イベントもあり参加したりもしましたが、中学生にもなるとイベントの参加は本人が嫌がって行きたがらないし、あとは受験も控えているので勉強をしないではいけないのだけど、自宅でやるのは光熱費が掛かってしまい、図書館などに行ってもやる様に言うがなかなかそれも場所がなく、困ってしまいました。今は学校にも冷房が完備されており夏休みはもっと短くていいと思います。また学校の教室を勉強の場として解放してくれたらいいのかなと思いました。
- 来年からも暑さは継続すると思うので、夏休み子どもたちが屋内で楽しめる場所があるといいな、と思いました。
- 暑過ぎて公園で遊べないため子どもが1日中家でゲームやYouTubeをみているのが困ります。公園のかわりに室内で遊べる居場所が必要ですが近くにありません。
- 厳しい暑さのせいで外に出て遊ぶことが難しく、子どものストレス発散や体力づくりができなかった印象でした。家にずっといると親も子どもも気持ちが塞いでしまいます。ただ児童館などは自宅から遠く、到着までに暑さに倒れてしまいそうです。エアコンが効いた夏休みの居場所が徒歩圏内にあれば子どもの心身を健全に保てたらいいと思います。
- 今年の夏休みは猛暑の影響で、学校のプールに一日も入れず子どもがとても残念がっていた。また暑すぎて外遊びもできず、室内で過ごすことが多かった。しかし、室内の遊び場や運動できるところも住んでいる地域には無いため、週一でもいいので学校の体育館などを開放してほしい。
- 夏休みで周りではどこかに出かけたとかあったけど、うちは子供が5人いて尚且つ均等割を払ってるから課税世帯になるため、経済的にカツカツなため、生活していくうえで不安なのと、小学生の子供達を児童館に預けるとお金がかかるため、家で留守番してもらい、仕事の合間見て家にかえらななきゃいからまともに仕事できず、収入もへった。
- ひきこもりの小学生の娘を家に置いて出かけるのはとても気が引けた。学童をとも思ったが、毎日お弁当を持たせていかせるほどの金銭的な余裕も体力もなく、親としては気が引けるばかりで、仕事をやめた方がいいのかさえ追い詰められました。
- これまでは学童を使えたが、中学生は学童がないので凄く心配だった。中学生だからもう大丈夫と思っていたが、そんなことはなかった。心配がストレスになって、私の腹痛が酷く夏休み中ずっと体調が悪かった。積極的にテレワークのできる企業が増えてほしい。
- まだ保育園なので、夏休みはなく登園できているので助かっています。小学生になったら夏休みなどの長期休暇の時仕事はどうしたらいいのでしょうか？正社員からパートなどに職制変更するしかないのでしょうか。今から不安で仕方ないです。

➤ 現金給付をしてほしい

- とても家計が苦しく、夏休みに子供と出かけることすら出来ず可哀想な思いをさせてしまいとても心が痛みます。物価高が少しでも落ち着き、給付金が1日でもはやく実施されて欲しいです。
- とにかく何もかも高騰していて本当に辛い夏休みでした。微々たる貯金も切り崩してしまいもうなくなってしまいます。でも子供達は不満をいうわけでもなく協力してくれています。現金給付を廃止しろという声も聞えますがそれはお金に余裕がある方の発言でしかないと思います。この辛い状況はひとり親の低所得者でしか分かり得ないです。
- 物価高でシングルマザーには普通の生活すら難しくなり、外食もできません。政府には給付金をお願いしたいです。

➤ **必要とする家庭が支援を受けられるようにしてほしい**

- こどもが大学生になり、やっと長くなったこども手当も児童手当等なにも給付がなくなっての夏休み、予想以上に金銭面で大変でした。専門学校生や大学生など無理をしてでも子供の将来の為やりたい事のために諦めさせないで進学させても、その先の支援がまったくない事が大変です。食料支援など大学生世代でも学生証や在学証明書を出せば受け取れるような仕組みを作って欲しいし、支援していただければありがたいです。
- ひとり親はもちろん大変なのはわかりますが、2人親でも収入がそんなに多くなく、多子世帯でかかる金額が全部、倍以上かかりとても大変です。下手したら、ひとり親（支援金などをふくめて）よりも生活基準がひくいのでは？と思うときもあります。
- 非課税世帯への支援があるのはありがたいことですが、実際にはその枠に入らない家庭でも、家計に余裕がなく苦しい状況があります。私自身も、非課税ではないという理由で支援の対象外になることが多く、日々の生活や子どもの教育費には常に不安があります。支援が本当に必要な家庭に広く届くようにしていただきたいです。
- 物価高で、食費はもちろん、衣類や雑貨等も全て値上がりしています。もちろんレジャー費も値上がりしているので、夏休みを楽しむことは非常に苦しいです。多くの支援は非課税世帯が対象ですが、非課税の壁をあげていただかないと、物価上昇であるのに働き控えとなってしまう矛盾が生じます。非課税の壁について深掘していただきたいと思います。

➤ **その他**

- 子供のために働いて稼いでいても、働くことによって子供との時間が減ってしまい寂しい思いをさせてる事が悲しい現実だと思います。仕事収入をとるか子供との時間をとるか、ではなく働きながら子供との時間もとれる世の中になってほしいと切実に思います。
- 子どもの夏休みを短縮したいと希望される方がいるとのことですが、私は期間はそのまま、親の休みがもっと増えて子どもと充実した時間を過ごせたらいいなと思いました。子どもは休みでのんびり過ごしてるけど、親が仕事でどこにも行けない…という状態だったので。有給も限りがあるので、休みを増やして子供との時間を大切にしたいです。
- 不登校家庭にとっては、長期休みは関係なく常に経済的に厳しい状況です。ホームスクーリングだと、食費や光熱費、消耗品費は学校へ行っている家庭よりも多くかかっているのではないかと思います。
- 嬉しいことですが、部活で大きな大会まで進むことができました。息子の交通費、宿泊費、ユニフォーム代などは学校より支給されましたが一時的に立て替えることもあり、およそ5万円ほどすぐに払わなくてはならなかったのは、辛かったです。
- 長男が大学1年となり、まわりがレジャーや教習所に通う中、ひたすら掛け持ちをしてアルバイトをしてくれた。初アルバイト代を現金で下ろしてきて、全額を「使ってください」と言った。嬉しいやら申し訳ないやら母として情けないやら、複雑だった。自分は昔、初アルバイト代を好きに使っていたのになと、涙がでるくらいだった。
- 住んでいる地域で支援に差があると感じる。食料配布や子ども食堂などがない。もしくは遠いので交通費が高く諦める結果になる。

以上